シグマTECH

中学受験体験記

2025年版

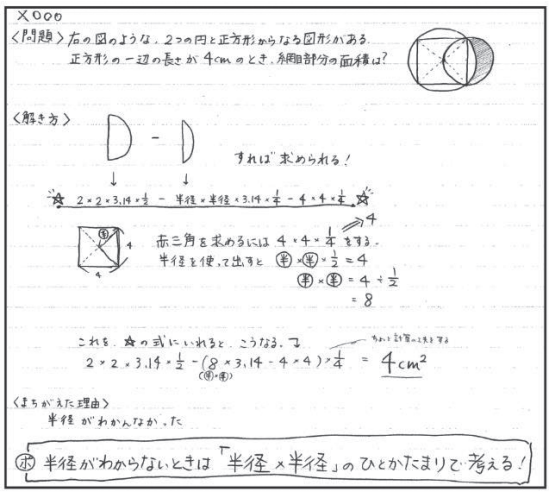
生徒・保護者の声

スクールFC用語集

受験体験記の文中にたびたび出てくる、「スクールFC独自の学習法や、ノート法の用語」を紹介いたします。スクールFCの指導の重要な柱であり、受験学年になると、すべてのクラスでこれらのノート・学習法を活用して子どもたちを伸ばしていきます。

■復習ノート（算数）

合格を勝ち取るための学習のポイントは「できなかったことをできるようにする」こと。その学習サイクルの軸となるのが、FCの「復習ノート」です。このノートは、自分だけのオリジナル問題集として、分野ごとの弱点対策や小6秋以降の総仕上げに大活躍します。**復習ノートの作成と反復によって身につくのは「失敗から学んだ経験を次に活かす」という力です。この力は中学受験のみならず様々な試験対策で大きな武器となります。**



■青コメントノート（国語）

国語の長文読解力を上げるためのノートです。間違えてしまった読解の問題に対して、

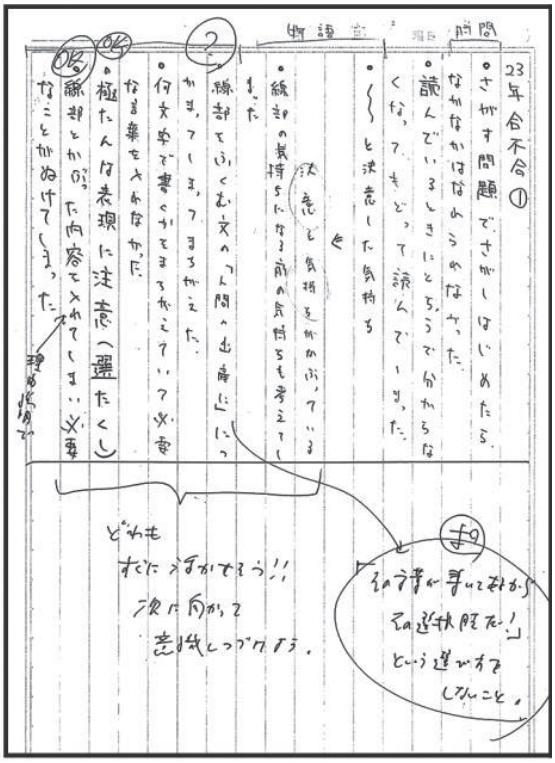
①誤答の原因（なぜその答にしてしまったのか）

②正解への道筋（どういうプロセスで考えれば正解に辿りつけたのか）

③自分に向けての教訓（次に活かすべく、間違いを一般化する）

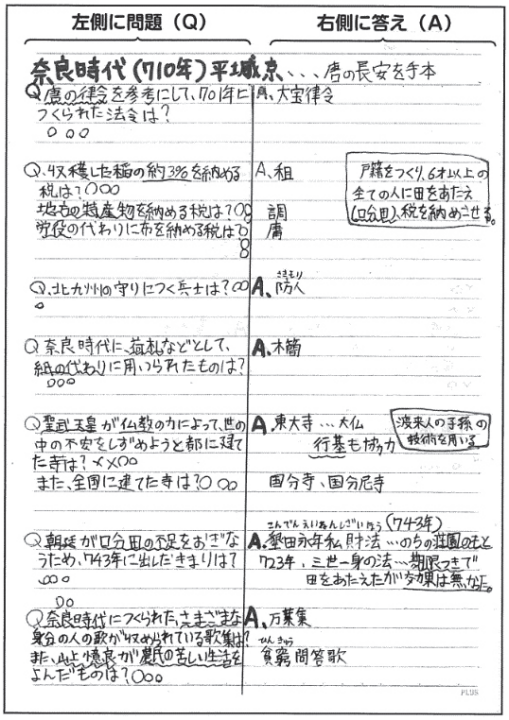
これらの視点で、コメントを書いていきます。

自分の × に向き合い、自分を成長させるために必要な事を考えて言葉にする、きわめて本質的な取り組みです。読解が得意な子はもちろん、苦手な子をも数多く伸ばしてきた学習法です。



■Q&Aノート（理科・社会）

覚えきれていない知識を集め、自分だけのオリジナル問題集を作成していくのが「Q&Aノート」です。**問題集やテストで間違えた問題や定着していなかった知識を自分のものにすることを目的としています。日々作成することで、自分の弱点や苦手が集まったオリジナルの問題集ができていきます。**卒業生が口をそろえていうのが、「Q&Aノートは宝物！」という言葉。FCの受験生なら必ず作るノートです。



■○× チェック・× 解き（全教科）

「どの問題ができて、どの問題ができなかったのか」を問題集やテスト等に○× の記録を残しておく仕組みが「○× チェック」です。そして、間違えた問題（× がついた問題）をそのままにせず、解きなおす仕組みが「× 解き」です。テストや入試前などは、「過去に × がついた問題」を解き直しすることが非常に有効です。他にも「○が2回つくことを目標にする」など様々な活用の仕方があり、一生ものの学習法が身につきます。

※上の「Q&Aノート」では、たくさんの○× チェックがついており、何周も反復していることがわかります。

■自学室

創立以来のFCの大きな特長は「自学室」です。受験学年ともなると、授業時間と同等の時間を自学室で過ごすのが伝統になっています。平日は満席になることも珍しくありません。質問や相談などにも自学室監督のスタッフが対応いたします。

A さん保護者さま

「幸せな受験」

進学先：麻布中等部

4年生が終わる頃から、TECH 後の帰宅時間が徐々に遅くなりました。Comiru を見る限り、退出時間から家に帰るまで、通常であれば40分程度なのに、1時間以上かかる日が続き、聞いてみたところ、仲間とのおしゃべりが楽しすぎて、別れがたく、帰宅経路を変えて大きく迂回して帰っている、と。結局みんなとのおしゃべりは、TECH の最終日まで続いていました。

家に帰っても、TECH の先生の面白エピソードや、仲間とのおしゃべり（算数の難問から、国際政治から、面白い YouTube など）を、楽しそうに笑いながら教えてくれました。

受験が終わり、息子も TECH がないことに慣れないと言っていますし、私自身も、息子から聞く面白エピソードがぐんと減ったことを寂しく感じています。

息子はコツコツ勉強することが得意ではないこともあり、たまに担任の先生に真剣に叱られつつ（笑）も、基本的にはモチベーションを上げ続けていただきました。

担任、ゼミご担当、そしてシグマ TECH の皆様のコーチ力の素晴らしさに感服しきりでした。

実は何回か、親子関係が微妙になるような言い争いや喧嘩もしました。本人は親が見ていないところでも自分なりに少なからず頑張っているのに、親は表面的なことしか見ずに、「ちゃんとしろ」という抽象的な言葉で彼を抑圧しようとするのが本当に嫌だったとのこと。

親子間ではうまい仲直りができなかったのですが、きっと TECH で先生や仲間に話を聞いてもらい、友達と他愛ない話をしながら、気持ちを整えていたのかと思います。

（私自身も、一人で悩んだり怒ったりせずに、TECH の先生に、子どもをサポートできるコツをもっと聞いておけば良かった・・・と思っています。）

息子にとって、家庭や通っている学校以外で安心できる場を持てたこと、最後は「どういう問題が出てくるか楽しみ」という気持ちで受験に臨めたこと、そのような心理状態になるまで辛抱強く伴走してくださった先生、そして、楽しい仲間と過ごせたことは、彼の人生の中でもとても幸せなことだったと思います。

受験後に、TECH どうだった？と聞いたら、「楽しかった！ 最高だった!!」とのこと。

幸せな受験という、ともすれば相反するかもしれないことを実現してくださった I 先生はじめ TECH の皆様、そして辛くも楽しい時間を共に過ごしてくれた仲間たち、どうもありがとうございました！

B さん保護者さま

「保護者としての中学受験体験談」

進学先：渋幕中等部

息子は幼いころに米国に住んでいた経験から、小学校はインターナショナルスクールに通っていたのですが、付属中学校がないため小学校3年生のころから中学受験を意識して通信教育での勉強を始めました。

4年生で勉強が本格化した際、母親との勉強ではどうしてもぶつかり合ってしまうことが多く、5年生からは塾に通いたいと本人が言い出し通学塾を検討し始めました。

本人が真剣に取り組んでいる習い事であるサッカーの回数を減らしたくないという希望が強く、書籍で拝見したシグマ TECH の存在を知って、5年生から TECH お茶の水校に通い始めました。

5年生の時は週に1回のオンライン授業と、土曜日の対面授業を組み合わせて通塾し、本人の希望であるサッカーを優先しながら自分自身で勉強のサイクルを見つけ出すようになりました。

TECH に通い始めてから、自丸・×解きという自分自身で問題を解き直す習慣ができ、自律して勉強を進める習慣ができました。それにより、親としての関与は少なくなり、力になってあげたい思いもありつつ、自分自身で勉強を続ける姿を頼もしく見ていました。シグマ TECH は保護者会もオンラインで実施いただけるため、共働きでサポートする我々としても大変助かりました。

6年生になると、やはり対面授業が面白いとのことで（特に社会の先生のお話が非常に面白いと）、火曜日も通塾するようになり週に2回対面授業を受けるようになりました。

自宅近くの中学校を希望していたことから最難関・難関校を目標に明確に取り組み始める中で、模試の結果に一喜一憂し、何度かストレスをためたこともありました。ですが、文武両道で勉強がサッカーに良い影響を与えるのだという意識で前向きに勉強に取り組み続けました。

6年生の夏以降は本格的に志望校対策をはじめ、別の塾の志望校別対策を組み合わせるようになりました。ここでも定期的にシグマ TECH の先生方が必要な教材を足してくださったり、過去問を貸し出してくださったりするなど、最後まで一体となってサポートいただけました。

12月に帰国受験で無事に2校合格が出ましたが、その後12月後半はマイコプラズマ、インフルエンザと体調不良が重なり1月受験に向けて不安な日々でありましたが、最後1月受験に向けて集中力を絶やすことなく前向きに勉強を続けることができ、最終的には1月受験も無事合格して受験校すべて合格という結果となりました。

12月1月は体調不良もありサッカーを休んだこともありましたが、6年生の終わりまでサッカーを続けることができ、中学受験とサッカーをいずれも諦めることなく両立した受験生活を終えることができました。

結果的に最難関の学校に合格することができましたが、これはゴールではなくスタートだと思っています。良い環境に身を置けることに感謝し、今後はこれまで身につけてきた自分自身で勉強する力を最大限に活用し、今後もサッカーに勉強に中高時代を楽しんでもらいたいと思っております。

ここまでサポートいただいたシグマ TECH の先生方に感謝申し上げます。2 年間という短い時間ではありましたが、幸せな中学受験を体験させていただき大変感謝しています。

何か後続のご家族のお力になれるのであれば、ぜひいつでもお声掛けいただければと思います。これまでありがとうございました。

Cさん保護者さま

「娘の成長」

進学先：洗足学園中等部

娘は結果的に第一志望校に合格することができましたが、これはいくつもの好条件・幸運が重なったからだと感じています。
ただ、第一志望校に合格できなかったとしても中学受験への挑戦を後悔することはない、ここまでこられたことが奇跡だと、2月1日の朝、娘と受験会場に向かいながら話していました。

そんな娘の 3 年間を振り返ります。

■週一通塾で6年まで

体力がないマイペースな娘にとって、6年生でも通塾2回20時までというシグマ TECH でなければ続けられなかったと思います。

実際、6年1学期までは通塾1回、オンライン1回でした。もともと親としても睡眠時間を削ったり、やりたいことを過度に犠牲にしたりすることは望んでおらず、特に習い事もぴんとくるものがなくだらだらするくらいなら勉強したら、くらいの気持ちではじめた通塾。始まっても塾に通っていない学校の友だちと遊んだり好きな絵を描いたりと、だいぶのんびりしているなという印象でした。

■課題が終わらず泣く日々

とはいえ、他塾と比べて通塾が少ないとはいえそれなりに課題があるため、だらだらしていると終わりません。

通塾前夜にまったく終わっていないとべそかく娘に、自業自得という言葉を呑み込み、優先順位の高いものはなにかを考えること、楽しかった時間を後悔しなくてすむよう最低限計画的に勉強の時間をとることを促す日々でした。

正直、泣くほど辛いならやめようとなんども話したのですが、塾の時間は楽しく、また課題もやりはじめれば楽しいとのことで、限界まで見守ることにしました。

結局6年最後まで自学ノートの課題を終わらせることはできませんでしたが、一時期毎回のように先生に相談したことで優先順位を判断できるようになり、泣かずに前向きに課題に取り組むことができるようになりました。このことは、今後の人生にも大きな自信と財産になった

と思います。

■志望校が決まるまで

いくつかの学校に見学に行く中で、緑が多いキャンパス、イラスト部もしくはイラストっぽい美術部がある、女子校というあたりが娘の志望ということがわかってきました。

その中で娘が1番気に入ったのが頌栄女子学院で、本命校としました。また、洗足学園は成績的に厳しかったですが、チャレンジ校として目指すことにしました。もうひとつ、田園調布学園も校風や雰囲気がとても気に入ったため、上記3校を志望校としました。

早々に志望校が決まったのは幸運だったと思います。ちなみに、親としては都立中高一貫や海外進学に強い学校をおすすめしましたが早々に却下されました。

■スイッチがはいったのは 12 月!?

6年夏期講習で毎日通塾していたおかげか、2学期から週2回の通塾ができるようになりました。

また、あまりにも社会ができないことに危機感を抱いたようで、日曜日の特別講座を途中から受講させていただきました。

さらに12月からは週1,2回自習室に通うようになりました。「自習室だと勉強がはかどる! 」との発言が飛び出し、この頃にようやく受験生らしくなった気がします。

■志望校と過去問

不思議なことに、過去問を解くなかでも、上記志望校のものはとてもおもしろかったようで、「こんな問題を出す先生がいる学校ならぜひ行きたい」とモチベーションが上がっていました。

特に、田園調布学園の過去問がとても気に入り、きっといい学校だから行きたいと思えたことは、精神的な安定につながったと思います。

洗足学園の過去問は最後まで2回に1回合格最低点に届くかというレベルで、特に当初は算数の解答用紙が真っ白でだいぶ自信をなくしていましたが、最終的には2回受験すれば1回は届くかも、と切り替えて試験に臨みました。

■受験計画

娘の体力とメンタルを考え、1月受験校は1校に絞りました。そして、2月1日に頌栄、午後に田園調布、2月2日に洗足としました。

2月1日を洗足ではなく頌栄にした理由は、娘が志望していたことと、メンタル面から2月1日にあまりチャレンジをしたくなかったためです。また、2月1日不合格だった場合は2月2日の洗足を田園調布に変更する予定でした。

このあたりは担任の先生にアドバイスいただいて、見落としていた視点などを指摘いただいて助かりました。

例えば、当初は2月1日の試験結果を見ないほうが2月2日安心して臨めるのではと思っていましたが「結局気になって悩んでみるケースが多い」「2月1日両方不合格だったケースを想定したほうがいい」というアドバイスから計画変更しました。

1月校も1校でいいものかと不安でしたが「性格的にも成績的にもこの1校で十分」と応援していただき安心して臨むことができました。

■受験当日

2月1日は落ち着いて受験に臨むことができました。が、午前の国語で時間配分ミス、切り替えて午後試験を受けたものの、帰宅後は疲労もありぐったり、翌日受験は難しいかもという状況でした。

ただ、夜に合格の表示を見てすっかり元気になり(メンタルに体調が引っ張られることを痛感、再確認)、理想的なコンディションで2月2日を迎えることができました。

とはいえ合格は五分五分と思っていたので、結果は運だから気にせずやれるだけやろう、と声掛けをして、あとはランチどこで食べよう? など、雑談しながら会場に向かいました。

結果、1回目で合格することができ、娘の3年間の挑戦を最高の結果で終えることができました。

■振り返って

親としてできたことは、志望校を決める手伝いと課題に前向きに取り組めるように声掛けするくらい、勉強面では塾と本人に任せるしかなく、メンタル面のサポートに終始していた気がします。

唯一、親にしかできなかったと思うことは、受験計画です。娘の場合は比較的シンプルだったかと思いますが、それでも2月1日からの合否によってパターン7までを想定し、それに合わせて仕事の調整もしました。

「通学時間けっこうかかるし、土曜日も授業あるし、課題も結構あるらしいよ。だいじょうぶかな」と決まってから不安になって聞いたところ、「行きたい学校だから大丈夫。きっと楽しいよ」と笑顔で答える娘に、しみじみ成長を実感しました。

ここまで導いてくれた先生方、一緒にがんばってくれた同級生の皆様に心から感謝申し上げます。

Cさん

「幸せな受験とその先へ」

進学先：洗足学園中等部

私は４年生からシグマ TECH に通いはじめました。

きっかけは親にすすめられたことでした。他のいろいろな塾にも体験で行ったことはありましたが、それに比べて第一印象で堅い感じがなく、素直に「おもしろそう!」と思えたことを覚えています。

それまで公文に通っていた私は毎日同じ量をこなすことが苦手で、提出日の前日や朝に焦って大量の問題を解くことが多かったです。

ですが、シグマ TECH に通いはじめてからというもの、先生からの「自分に合ったスケジュールを決めよう」というアドバイスや「毎日こつこつやることが大切」という教えを受け、自分から１週間の計画を立てられるようになりました。

それでもやはり、遊ぶことが楽しくて課題があまりできなかった、という日もありました。そんな時に、「次の日に今日の分もまとめて頑張ろう」と思ってしまうと、次の日にできなかったことがまたその次の日に回されて…というような負の連鎖ができてしまいます。あるいは、そんなことをしても何も生まれないのに「もうだめだ…遊ばなきゃよかった…」と思ってしまうこともありました。

そこで大切なのが、「切り替え」です。今日は思いっきり遊んで楽しかった！ と、まず受け入れて、「じゃあこれからどうしようか」と冷静に考えられるように切り替えること。例えば、「最低限、ステップ１のここまではやろう」とか「自分はここの単元が苦手だから、この課題を優先的に進めよう」と優先順位をつけたり、「50分やったら10分休憩」と言ったように自学の時間と休憩時間のメリハリをつけたり。

このように、シグマ TECH に入ってから、決められた課題や時間などについて自分に合った進め方・使い方を考えられるようになったと思います。

今振り返ると、6年生の夏休みが明けて、学校の委員会やクラブ活動などが活発になる中、受験勉強と両立するためには上記の「自分に合った計画を立てる」「計画通りに行かなくても切り替え」という2つのことが重要だったように思います。

ここからはシグマ TECH の授業についてです。シグマ TECH の授業は遊び心に満ちあふれていて、毎回とても楽しく勉強をすることができました。授業時間が少ないぶん１回１回の授業内容が濃く、様々なことを覚えることができました。4年生から6年生まで本当に毎回の授業が充実していて、先生の教え方や友達が面白くて涙が出そうなほど笑っていたこともありました。

しかし、5年生になって課題の量や質が増えたことがきっかけとなり、これからのことを考えることが必要になってきました。

私は志望校を選ぶ際、実際に行ったり調べたりする学校の数が少ない方だったと思うのですが、その代わり「ここが気になるな」と思った学校の行事やオリエンテーションにとことん行って、自分に合った学校を選びました。

私は6年生の2学期まで朝夜テックや自学室を利用したことがありませんでした。自分の勉強机が小さいためパソコンが置けないという理由で朝夜テックをやっていなかったのですが、自学室の存在を知ったのが6年の夏休みが明けてからでした。

休憩時間は友達と話したり本を読んだりホワイトボードに落書きをしたり（禁止されていたことに気づいたのはつい最近…）と思いっきり遊びましたが、自学の時間はしっかり集中できる。そんな自学室を実際に利用したのは１１月からで、利用してからその素晴らしさに魂が震えました。

もっと前から利用していれば良かった…と思っても後悔先に立たずなので、早いうちから行ってみることをおすすめします。

次は、勉強法について伝えたいと思います。算数と理科は、演習問題集で苦手単元の問題を何周も解くことがおすすめです。特に私の志望校の算数では速さがよく出てきて、それが解けないことが課題でもあったので速さの単元をひたすら解きました。

図形の単元などでは、初見では解けないような問題を解くことができ役に立ちました。×になった問題だけでなく、時間がかかる問題や、より良い解き方があるような問題もしっかり復習して、次につなげることが大切です。

社会では QA ノートが役立ちました。QA ノートは4年生の頃からやっておいて良かったと思います。けれど、赤シートで隠して解くような穴埋め問題を QA ノートと同じ場所に作ってしまうと、振り返りがやりづらくなってしまうので注意です。私はそれをしてしまっていたため6年生の夏休みに指摘されました。QA ノートの目的は作ることではなく振り返って解くことだということを忘れないようにしましょう。

国語は得意教科だったため、自分だけの課題としてやったことはあまりなかったのですが、志望校の読解問題で伸び悩んでいた時に記述がたくさん出る学校の過去問を解いたことがあります。ですが、何よりも数をこなすことが大切だと思うので、何度も過去問を解いて時間配分を考えることや、青コメノートで自分のできていないところを見つめ直すこともポイントです。

2月1日まで残り1ヶ月を切った1月では、過去問にほぼ毎日取り組んで練習を重ねました。過去問を解くことで自分の苦手単元を見つけられ、自信にもつながるのでやって良かったと思います。

また、四まとの発展編やシャボテンといった知識系を直前にやることがとても効果的でした。社会は当日まで伸びる（と思う）ので、入試当日の朝や休憩時間に QA ノートを見ることをおすすめします。

そして緊張と不安と期待の入り混じった感情で迎えた2月1日の朝。最初の入試教科は国語。得意教科だったので、落としたらどうしよう…と緊張は最高潮でした。けれど、朝のZoom応援で元気をもらった私は「楽しんで受けよう!」という気持ちで挑みました。

しかしここでハプニングが。

少し楽観的になって緩みが出たのか、入試時間を間違えてしまったのです。第一志望の過去問ばかり解いていて、実際の時間よりも10分多い50分だと勘違いしていました（実際は40分）。自由記述と60字記述という大きな問題を解かずに終わってしまい、幸先の良いスタートは切れませんでした。気持ち的にも沈んで、もうだめかもしれないと思った国語ですが、今まで身につけてきた「切り替え」という力を発揮して多教科でリカバリーすることができました。

結果は合格。泣いたり飛び跳ねたりするほどの嬉しさよりも安堵の気持ちの方が強く、次の第一志望に向けて頑張ろうと思うことができました。

第一志望では、算数個別授業のＳ先生がおっしゃっていた、「初めの合図よりひと呼吸おいてから始める」ことで落ち着いて解くことができました。

そして2月2日の夜、第一志望の合格発表の時間になりました。

人生でこれ以上ないほど緊張していて、母に抱きつきながらボタンを押しました。

そして出てきた桜の花びらと「合格おめでとうございます」という文字。実を言うと多分不合格だろうなと思っていて、「合格」の文字を見て「えっなんで?! 」と驚きが先にきてしまいました。そして遅れてきた嬉しさ。家族と一緒に泣き叫びました。近所迷惑だと言われてもいいくらい思いっきり叫んで、その喜びを少しでも先生にも伝えたくて、すぐに電話をしました。今まで頑張ってきて本当に良かったなと思います。

けれど、ここまで私が頑張ってこられたのは、私を支えてくれた先生たちや仲間、そして家族。その繋がりやありがたさを、身をもって感じることのできた「幸せな受験」でした。

そんな感謝してもしきれないくらいの思いをもって、私は洗足学園中学校へ入学します。

何度も言われているけれど、受験はゴールではなくてひとつの手段・スタート。そのためその先も様々な苦難や壁が立ちはだかるでしょう。けれど、その度にこの受験を思い出して、自分の選んだ道に自信を持って進んでいきたいです。

Dさん保護者さま

「合格以上に価値ある学びと成長の3年間」

進学先：武蔵中等部

・入塾のきっかけ

首都圏の過熱した中学受験には否定的だったため、当初は息子に中学受験をさせる気はあまり無く、公立中高一貫校の受験を検討する程度でした。

一方で息子本人は算数やパズルが大好きで、小学4年生の春頃には「なぞペー」や「ちゃれペー」をあらかたやり尽くしてしまい、新しい問題集を探すことに苦労していました。そんなとき、3年生向けの Think!Think!シグマを見つけ、息子は大いに楽しみながら通うようになりました。

ところが4年生になるとこのコースは設定されておらず、退塾も検討しました。しかし日曜探求に魅かれてシグマTECH に興味を持ち、週2回の通塾で夕食も家でとれるなら許容範囲かと悩んだ末、息子に提案し、入塾テストを受けることを決めました。

・3年間の様子

4年生の頃は、カルタ大会などゲーム的な要素を取り入れた授業も多く、楽しく通えると感じていました。高学年になると課題も増え、どうなるだろうかと様子を見守っていましたが、課題の多さを口にすることはあっても、それを辛いとか嫌だとは一度も言わず、いつも楽しそうに通っていました。

毎回、最寄り駅まで迎えに行き「今日はどうだった？」と尋ねると「楽しかった！」と目を輝かせながら即答する姿に、充実した学びができていると実感していました。

気の合う仲間もできたようで、授業後に友達と話し込んで帰りが遅くなったり、導入されたばかりの中央線グリーン車に乗るために皆で東京駅まで戻ってから帰ってきたりする姿も見られ、単なる勉強の場を超えた人間関係が育まれていることが伝わってきました。

日々の通塾とは別に、シグマTECHに通って特に良かったと感じるものが、日曜探求とサマースクールでした。日曜探求の社会や理科の回で出かけたフィールドワークは、子どもにとって得難い学びの経験となり、複数の分野や単元が繋がっていることを実感できる機会になったようです。また、親子の良い思い出にもなりました。

特に国分寺を巡った回や、水族館の回の解散後に浜辺を子ども達が散策していた様子は印象深く残っています。

サマースクールも、親は同伴しませんでしたが、写真や本人の話から判断する限りとても楽しめたようでした。都会で育つ子どもにとって、自然体験ができる貴重な機会となり、自然の中で思いっきり遊ぶことで一段とたくましく成長する姿が見られました。こうした体験学習が、教室での学びを立体的に深めていったように思います。

・気をつけていたこと

重視していたのは、ゴール設定を「大学卒業後に本人が望む人生を送れるような種を蒔くこと」とし、中学受験はその過程に過ぎないという認識を忘れないことでした。

模擬試験の結果はどうしても気になってしまいますが、成長のタイミングは体格同様に個人差が大きいものでしょうから、常に“あと伸び重視”の姿勢を心に留めるよう努めていました。

そして何よりも、学問を楽しいと感じる心を大切にしたいと考え、模試などに送り出す時には「面白い問題が出るといいね」、帰り道では「面白い・学べる問題あった？」といった声掛けを心がけていました。

また、学習の内容やペースは本人とTECHに任せ、課題の進捗状況や授業の理解度などには口出ししないようにしていました。時々食卓で「最近はどんな単元をやっているの？」と話題にし、好奇心を広げるきっかけ程度にとどめていました。

子どもの学習面はTECHに全て外注したつもりで、親子の間では生活面での「育て」に注力し、役割を切り分けるよう意識していました。これは、親よりも外部の専門家の方が学習指導に適していると考えたためです。

息子は精神的な幼さからか、忘れっぽく目の前のことに意識を奪われやすい性質がありました。ですが幼稚園の園長先生の「教育は、ねじ込むのではなく擦り込むのです」という言葉を思い出しながら、軽めの調子で声掛けするよう心がけていました。

受験を通して、親の役割はマインドセットに関わることであり、具体的な行動を強いるものではないと再確認しました。声かけの内容もネガティブ・インセンティブではな

く、ポジティブ・インセンティブを意識していました。この姿勢は、特に直前期の息子の安定感などに効果があったと感じています。

・志望校選択

息子の将来に多様な選択肢が広がる学校が良いと考え、国際的な学びや探究的プログラムが充実した学校を中心に探していました。

しかし私自身は土地勘がなく、学校の特徴どころか名前も全く知らなかったため、興味を持った学校の説明会には複数回参加するようにしました。2月受験校については、どの学校も4～5回は説明会（合同説明会も含めて）で話を聞きました。

同じ質問を異なる先生に尋ねたり、答え難そうな質問や子育て相談のような質問もしてみました。そうすることで、オフィシャルな説明だけでは見えてこない学校の本音や素の部分が見えてくるように感じました。

最終的には、1人1人の先生が濁さず誤魔化さず自分の言葉で語ってくれる、と感じた学校を第1・第2志望にしました。特に武蔵は息子もとても気に入ったようで、親子共に感覚の合う学校に巡り会えたのだと思います。

志望校を検討する上で大学進学実績も参考にしましたが、大学の入学偏差値と社会での活躍が必ずしも一致しない例を多く知っていたので、あくまで参考程度にとどめました。ここでも、あと伸び重視の姿勢から、息子が6年間過ごすことで伸び伸びと学問を楽しみ、成長できるような環境（教育コンテンツ、施設、在校生の雰囲気等）を優先しました。

今となっては、各校の入試特徴にはそれなりに大きな違いがあり、必ずしも模試の偏差値にこだわる必要がないと思うのですが、その認識に至ったのは志望校を決めた後でした。

4年生の頃から息子の偏差値で可能性があり、興味のある学校を探していった結果、最終的には進学しても良いと思える学校の偏差値の幅が30近くになりました。これによりどれかには受かるだろう、受かったところに行けば良いのだと、気楽に構えることができたのは幸いでした。

・入試直前期

2月入試の午前受験校への移動を考えると、朝のスケジュールを早める必要があることがわかったため、年明けから当日と同じ起床・朝食時間を習慣化しました。また、過去問演習のスケジュールは本人に任せ、相談された時のみ意見を述べ、回答用紙等の印刷のみを担当するようにしました。

小学校については、以前からつまらないと言って行きたがらなかったこともあり、2学期後半から休みがちになり、1月は始業式以外ほとんど登校しませんでした。

しかしこれも完全に本人の判断によるもので、学校に行くより過去問を解いている方が楽しいという理由からでした。一方で習い事のピアノと合気道には毎週欠かさず通っていました。受験前日の1月31日も道場に行き、本人も「本番前日に稽古できたのは良かった」と言っていました。

どうしても合否に意識が向き、不安になりがちな時期かと思いましたので、「入試というのは学校が準備する第0回目の授業のようなもので、しっかり問題用紙という授業を受け、思いっきり答案に自己紹介をして来よう」「合否は中学校の先生が判断することなので、こちらが気にしてもしょうがない、学校の先生がその学校に合う子を選ぶだけ。だから、自己紹介である答案には自分のできることや考え方を全部出し切って、先生が正しく判断できる材料にしよう」と伝えていました。

息子も過去問は解くよりも、テキストや参考書を見比べながら解説を読む方が学校の考えていることがわかって面白いと、学校との対話という感覚を楽しめていたようです。

・受験を終えて

受験テクニックに頼らず、最後まで本質的な学びを提供し続けてくださった先生方には感謝と敬意しかありません。国語が苦手だった息子は、6年生後半のオンライン個別指導でも国語を選択しました。最後まで思慮の浅いミスを繰り返したにもかかわらず、先生方は根気強く本質的な指導を続けてくださいました。

そして「ついに」というか「やっと」というか、2月入試が始まってから、これまで解けなかったような国語の問題が解けるようになり、息子自身も驚きながら入試会場を出てくるほど手応えを感じるに至りました。これは深い部

分に本質的な思考力を育み続けていただいたからこそ、最後に様々な要素がつながったのだと思います。

振り返ると様々な学びや成長がありましたが、特に大きな転機となったのは4年生時のクラス替えだったように思います。当初、好きな算数ばかりに取り組み、他の科目を疎かにする傾向が強く、バランスの悪さが気になっていました。そんな中、クラス分けで T クラスになり、S クラスの算数の方が楽しかったと不満を口にすることがありました。

そこで「親が与えてあげられるものは限られていて、自分の学ぶ場は自分で手に入れるほかないのだ」と言ってきかせました。先生からは「両クラスのボーダー付近だったものの、今後のことを考えると一度クラス落ちを経験しておいた方が良いのでは」というアドバイスもいただき、この機会を今後につながる意識づけとしました。

その後もこの件は息子との間で度々話題になり、自らの学びに対して責任感を持つようになっていったと感じています。

入試をゲームのように捉え、その攻略方法を訓練するためのサービスとして受験塾を位置づける風潮もありますが、シグマ TECH はそういったものとは方向性が異なるように感じています。受験はあくまで手段でしかなく、もっと広い意味で「育ててもらった」という感覚があります。

5年生の頃、息子が「シグマ TECH が学校だったら良かったのに」と漏らしていたのは、まさにその本質を言い当てていたようにも思えます。

最後に

シグマTECHには3年間通えて本当に良かったと感じています。最後まで楽しんで学びを深められたこと、一緒に「知」を楽しめる気の合う仲間ができたことは、かけがえのない財産になるでしょう。仲間たちとは卒業後も連絡を取り続け、時々集まれる企画を考えているようです。長く刺激し合える仲間を得られたことは、受験の合否にも匹敵する大きな恩恵だと思いますし、そのような関係性を育める雰囲気がシグマ TECH の特長の一つなのだと感じています。

D さん

「本当に成長してる?」

進学先:武蔵中等部

<シグマ TECH について>

僕は小学3年生の7月ごろから Think!Think!シグマに通い始めました。10月ごろ4年生からシグマ TECH に通わないかと親が誘ってきました。よくわからないまま入塾テストを受け、よくわからないまま入塾しました。

4年生は受験などあまりわからず楽しみながら「学び」をやっており良い意味で“塾”という感じがしませんでした。今思うと他塾に比べ TECH は授業時間も短く受験を過剰に意識せず受験を楽しめる塾で、僕にはとても合っていたと思います。

<僕の受験生生活>

僕が受験生だった1年間で、転機が訪れたのは6年生の9月頃で、概ねうまくいっていた1週間があまりうまくいかなくなったことです。

6年生の夏休みまでは課題のステップ1は終わらせており、特別勉強時間が長かった訳でもなく朝テックなどを利用しながら自由時間を確保した上でメリハリをつけて集中して取り組むことで、短時間で課題を終わらせていました。

そして余った時間で自分だけの課題も少しずつ行い、社会の四まとの地理を全部やり直して基本的な知識などの定着を図っていました。そのため模試の成績も比較的安定していました。

ちなみに僕が第一志望校を武蔵中に決めたのは6年の5月ごろです。武蔵中高の文化祭に行った時に、すごく自由と自然がある環境に惹かれ「ここだ!」と思いました。そして家に帰ってきた後、武蔵について調べているうちにさらに惹かれていったため第一志望校にしました。

しかし、6年の夏休みが終わり過去問が始まると、自分が成長できてないのではないかと感じ自信が少しなくなってしまいました。少し減った課題をやって過去問を解いて復習する、ということが一週間で終わり切らないことがおきるようになりました。そして課題を優先してしまうあ

まり、過去問の復習が1教科分終わっていないまま次に行ってしまうことがありました。

この状況を止めたいと思いながらも止めきれず、10月のサピックスオープンでの成績も低迷していきました。

12月ごろに流石にまずいということで過去問のペースを少し落とし、今まで終わっていなかった過去問の復習を全て終わらせ、怠り気味であった朝テックも友達と朝テック早入り対決をして勉強時間も増やしていくようにしました。結果12月の中旬にあった武蔵模試ではわりとと良い成績を出せました。

しかし少し油断したのか、そのすぐ後にあった志望校ゼミで解いた武蔵の最新の過去問では合格最低点を下回り危機感を感じました。今振り返れば12月ごろの踏ん張りと危機感が大事だったと思います。

1月になり入試が迫ってきていることを実感し、本当に成長しようと思いました。1月は今までの総整理をしながらも得意科目であった算数はあまりいろんなことはせずに、過去問をやる程度にしていましたが、ペースが鈍らないように毎日少しはやっていました。

苦手科目であった国語は過去問をやり青コメを書く、ということを繰り返し行いました。ちなみに1月校は開智所沢の特待 A を受け合格しました。開智系列は同時判定が行われたので、埼玉にある開智系列の学校にも合格しました。1月校の合格は油断に繋げずに自信と希望に繋げました。

1月31日には、国語の個別で教えてもらったポイントや、大量にある青コメをまとめようと今までの青コメから重要な部分を取り出し、紙1ページに似ているものをつなげながらまとめました。また、試験中に意識しやすいよう各学校の国語の試験の時間配分の作戦を確認したり、変更したりしました。

また国語以外の他の教科でも、今までのミスとその対策をまとめて本番でもしないように工夫をしました。おかげで自然と自信がつき入試が楽しみになれました。

ついにたどりついた本番2月1日。緊張したのは前日までで当日は自信(根拠はない)もあってか「やってやるぞ!」と意気込み、高揚していました。ちなみにギリギリの時間に武蔵の試験会場に行ったので約500人の受験生の中で最後に受付をしてしまいました(悔いはない)。

午後の開智日本橋も少し眠気に邪魔されそうになりましたが、問題に集中できたのでよかったです。午後の開智日本橋は得意な算数単科受験を選択したため、1日で5教科しか受けなかったのに思ってたより疲れました。ちなみに試験番号と名前、座席番号を書き忘れたまま試験が終了してしまい、幸い先生が書いてくれましたが、試験番号や名前、座席番号などは試験が始まってからすぐに書くことをお勧めします。

2月2日朝起きたら、開智日本橋に受かっていたことを知らされひとまず安堵。その日はとても寒かったのですが、カイロのおかげで手がかじかまずに桐朋を受けられました。カイロは寒い日には手がかじかむといけないので必須だと思います。

国語では、1月31日に作った1ページまとめに書いた「対比関係を常に意識する」というポイントを意識していたらスラスラ解けてしまいびっくりしてしまいました。午後の広尾ではまたもや約400人の受験生の中で最後に受付をして入室してしまいました(悔いはない)。

休憩時間には友達にも会えてリラックスできました。2月1日は眠気を感じたり疲れを感じたりしたのに、2月2日は疲れや眠気など感じませんでした。

2月2日は前日に比べてさらに楽しむことを意識してリラックスして解いていたため心が軽かったのだと思います。

また2月1日は第1志望の武蔵を受けたため精神的に疲れが出たのだと思いました。精神的な疲れ対策は大事です。

2月3日、今まで一度も合格最低点に届いたことのない海城を受験しました。毎回合格最低点-10点から-35点ほどで危機感を感じていたものの、いつもより3～8問ほど問題を正解すれば良いと考え、いかに凡ミスなどを抑えて問題を解くかしか考えず、怯まず(なぜか自信まであった)受験できました。

1月31日にじっくりと考えた国語の時間配分で実際に解いてみると、今まで試験時間内に全部解き終えたことがなかったのに(毎回記述が2個残っていたり記号問

題が5，6個残っていた)、試験時間内に全部解き終わり記述の構成をきれいに書き直し、記号問題を見直す時間まで余りました。改めて時間配分はとても大事で、僕のようなタイムマネジメントが苦手な人はちゃんと考えるべきだと思いました。

2月3日、9:00に武蔵の合格発表が始まりました。海城の受験が終わって合否を見ると、「合格です」と表示され実感はあまり湧きませんでした。でも徐々に嬉しさが込み上げてきました。

過去問を解いたとき合格最低点を取ったことは何回もあったのですが、9月ごろは合格最低点ギリギリだったのが1月の最後のゼミの時には合格最低点+43点で、当日は手応えがありました。9月から2月まで個別指導やゼミなどで国語が足を引っ張っていたのを少し改善できたり、他の教科も成長したりしたおかげだと「半年で成長したなぁ!」と思ったからです。

その後一緒に海城を受験していた友だちと昼ごはんを食べて解散したあと、電車を待ちながら桐朋と広尾の合否を見ました。桐朋は自信があったので受かっていて自信がありましたが受かっていて安堵しました 。

広尾は過去問では合格最低点を毎回超えていたものの、合否確認の形が番号を探す形式で倍率の高さを目の当たりにして圧倒されていたため、番号を見つけたときは驚きました（残念ながら特待ではなかったので少し悔しい）。

2月4日学校を休んでのんびりしていたら、仕事に行っていた親から海城の合否発表画面のスクショが送られてきました。合格発表画面には「合格」と書かれていて、広尾の時以上にびっくりしてしまいました。手応えはあったものの、初めて海城②の合格最低点をこえ「1月の終わり頃に解いて合格最低点を下回ってから2月3日までの期間でも、合格最低点を突破するだけの成長をしたんだなぁ！ 」と驚きました。周りの環境などにも恵まれたおかげで、憧れであった「受験全勝」を達成することができました。

＜未来の受験生に向けて＞

僕の志望校決めは文化祭60%と説明会40%で決めました。文化祭はその学校の校風などが体感できるので行くことをお勧めします。

また、僕のような国語が苦手科目の人は青コメをたくさん書くことをお勧めします。どれだけ問題を解いても青コメのプロセスをしなければ次に繋がらないので、青コメをとにかく書きましょう！ これは算数の問題に関しても量が多くて面倒になった時は、最後のポイントのところだけでもメモして経験を無駄にしないようにしてみてください。弱点が、しらみ潰しのようになくなっていきます。

そして、受験勉強が少しいやになった時は「人生。めんどくさいこともしていいか！ 」と思って、気楽に学んでみてください。

それから1月31日など直前の直前は今までの総整理もしてみてください。僕は今までの青コメを全部読んでまとめたり QA を一周したり予シリをパラパラめくったりしていました。

最後にぼくが思う大事なこと5個を箇条書きします。

・自己肯定感は高く自信を持つ。
・自分のこの科目、この単元は誰に負けないぞ!という強みを持つ。
・自分が今本当に成長しているのか考え続ける。
・何でも楽しんでやる。
・メリハリをつけて、やる時はやる遊ぶ時は遊ぶ。混ぜない。

＜未来の受験生に向けての問題＞

Q.次の条件を満たす自然数を当ててね！ 解いたらその数が何を表しているか考えてみてね！

①その数は3桁の数
②その数に19足すと素因数が2のみになる(2の累乗)
③その数から1引いてできた数は約数が12個ある
④その数は17の倍数ではない

Eさん保護者さま
「いつも通りが一番大事」

進学先：武蔵中学校

3年生の時、興味本位で受けた全国統一共通テストの結果が想像以上に良く、塾へ通うことを意識しました。はじめは家の近くの集団塾で、学童の代わりに楽しく通っていました。

4年生に上がる頃、受験というものを意識するようになり、息子も他にもっと色々な塾があると知ると、一番を目指したいと他塾へ転塾しました。1年を過ぎた頃、クラスが上がると「苦手な先生がいるから行きたくない」と言うようになりました。多少厳しく先生もいるだろうと思っていましたが、「今までもずっと思っていたけど、もう絶対に行きたくない」と言われ、このままでは勉強自体が嫌になってしまうと思い塾をやめました。

5年生という受験としては大事な時期に、しばらく何もしない数ヶ月間を過ごしたあと、「受験はもうしなくていいよね？ 」という話をすると「受験はする」と言いました。「それなら塾は行ったほうがいいと思わない？ 」と話し合い、いくつか体験授業などをさせていただきました。ここだという塾は見つからず、諦めかけていた頃、「学校のお友達から誘われたから体験に行ってみる」と言われ紹介されたのがシグマ TECH でした。通塾は週2回、1回のオンライン個別授業というスタイルはその時の息子には、とても合っていると思いました。

5 年生秋

体験授業では、お友達がいた安心感もありますが、クラスのみんなもとても温かく迎え入れてくれて、初めての授業とは思えないほど緊張感もなく、先生の授業も本当に楽しかったようで、すぐに入塾を決めました。

転塾するときに本人が決めていたことは、

「楽しくなくなったらやめる！」

「つらい受験は絶対にしない！」

「学校も行く。部活も最後まで続ける！」

でした。

自分から進んで塾に通うようになり、帰りにはお友だちとお話ししてから帰り、はしゃぎすぎて先生にはご迷惑をおかけしたこともありましたが、本当に楽しく通っていました。（特に6年生前期の「スーパー算数」は遊ぶことよりも楽しかったようです。）

塾から出される課題は自宅ではあまりやりませんでしたが、きっと授業では集中してやっている、いつかスイッチが入るだろうと見守ることにしました。

6 年生秋

夏期講習、サマーチャレンジ、他塾では続かなかった季節講習も楽しく通いきりました。長時間にわたる勉強でも楽しく通えたのは、仲のいいお友達と楽しい授業、乗り切るための工夫がある TECH だからだと思いました。

そして夏が終わり、過去問を始めたら意識が変わる…と期待しておりましたが、やはり秋になっても息子のスタンスは変わりませんでした。

必要最低限のことはやる。
自分の決めたことしかやらない。

過去問に取り組み始めると、理科や社会の知識問題ではまだまだ足りないことが多く、それを補うためには対策が必要でした。どうしたらいいか話し合い、先生にこれだけはやろうと言われた課題の一つは取り組むことと、テキストを解き続けるのは大変だけど読書ならできる！と言うので、楽しく読みながら知識が得られるようにたくさんの本を用意しました。

小さい頃から読書が好きで、年間150冊以上は読んできたと思います。楽しく学習するために、先生にもアドバイスをいただきながら本を読むことも続けました。そのお陰で、理科では同じ単元でもいろいろな角度から見ることで知識が深まり、社会でもただの暗記ではなく、時代背景や人物の感情など、いろいろな立場からの情報を学ぶことで知識が深まったように感じました。

弱点補強に時間を使い、得意な算数に時間をかけることが少なく、不安もありましたが、6年生からの個別授業（オンライン）の算数でしっかりと力をつけることができていたのかもしれません。つまずいたところで気づくきっかけをくださり、自分で解いたという達成感を味わいながら学んでいるようでした。

できているところを褒めてから、苦手なところをフォローして下さり、S 先生の穏やかな雰囲気も息子に本当に合っていたと思います。自分からは意見や感情を伝えることはありませんでしたが、メッセージカードにくださる言葉は受験前に見返して自信に繋げていたようです。

6 年生冬

志望校を決める時期になりました。偏差値を気にせず、息子が伸び伸びと過ごせる環境で6年間を過ごしてもらいたいという視点で学校選びをしてきました。息子も同じように偏差値は気にせず、見に行って印象が良かった学校を志望校に決めていきました。

第一志望を3校決めようと話していて、受験日で併願プランを考える中で、「受けられるだけたくさん受ける！」と言うので、理由を聞くと「塾にお世話になったから合格実績を上げたい」とまるでゲームにでも挑むような表情で答えていました。ここまで塾が好きになり、そう言う気持ちになるのならそれでやってみようと、5日までのプランを組みました。

1月

1月受験が始まりました。

1/10 栄東中

初めての本番ということで親の方がものすごく緊張していましたが、息子は当日も変わらず、少し緊張感は見えましたが、先生との Zoom 応援で落ち着いたようでした。受験に向かう時の真剣な表情が印象に残っています。

1/11 開地所沢中学校（S 特待）

体力が少し心配でしたが、向かう途中で TECH のお友達に会い、いつも通りの楽しそうな雰囲気のまま受験に向かいました。

2 月

1月校の合格をいただいた後、気が抜けたようにあまり机に向かわなくなりました。その中で、朝の漢字と計算、時々社会のテキストだけは続けていました。他の子はこの1ヶ月でまた伸びるという話も聞いていましたし、学校も休んで1日中勉強している子もいると思うと、本当にこんなに勉強しなくて大丈夫なのかな、と毎日不安でした。

しかし子どもを信じようと決めていたので、元気に当日を迎えることができるように、早寝早起きと栄養バランスの取れた食事をしっかりとることを心がけてすごしました。

2/1 武蔵中

いつも通り早寝早起き、朝ごはんもしっかり食べました。塾の先生に言われた、「いつも通りが 1 番大事だよ」ということをずっと意識していましたので、本当に31日まで学校に通い、サッカー部の練習も続けました。

親としては感染症にならないか、怪我をしないか本当に気が気ではありませんでしたが、本人にとってそれが一番いいのならと続け、そして無事に1日を迎えることができました。

先生との Zoom 応援を終えると、また TECH のお友達に会い、いつも通り「じゃ。行ってくるね」と向かいました。とても落ち着いていて、しっかりと前を見据えた表情を見て、安心して見送ることができました。

試験が終わり校舎から出てきたときも、自信に満ち溢れたとても清々しい表情でした。午後受験も控えていましたが今まで続けてきて本当に良かったと感じた瞬間でした。

「お腹すいた！ 」と軽食を食べて次の学校へ向かい、午後受験の前にも Zoom 応援で元気をもらっていました。試験が終わると、すごく自信があるよと話してくれました。

2/2 桐朋

同じようにいつも通りの朝を迎え、Zoom 応援をしていただき、また TECH のお友達に会うと「行ってくるね」も言わずあっという間に学校に行ってしまいました。帰宅して、今までで一番できたと満足そうに話してくれました。

2/3 海城

この試験中に2/1の結果が出ます。2/1午後の結果は出ていましたが、3日までは変わらない気持ちで受験をしようと本人と決めていたので、伝えませんでした。いつも通り受験に向かい、合格発表は自分で見たいと言われていたので、受験が終わり帰る途中に確認しました。合格でした。

発表を見ると、安心した満面の笑みが溢れていました。2/1午後の結果も伝え、午後には 2/2 の発表もありました。すべての学校から合格をいただけたことで、「やっぱりもう終わり！」と、息子の受験が終わりました。

お調子者の息子に温かく接してくださった吉祥寺校の先生方、本当にありがとうございました。にぎやかすぎて怒られないのかなと思うような話も笑顔で聞いてくださり、宿題が進まないときは量を減らしてここだけはやろうと柔軟に対応してくださった H 先生、子どもたちの世界を広げる授業をしてくださった I 先生、楽しいまま受験を終えることができたのも TECH のおかげだと思います。

何度か転塾をしてきましたが、テキストが良いと評判の塾や合格実績がアピールポイントの塾、他たくさんの塾がありますが、子どもの個性に合った塾との出会いが一番大切だと思いました。

親子で話を聞いて体験授業を受け、ここなら安心して任せられると思う塾に出会えることができれば、長時間勉強することも苦ではなく、友達と切磋琢磨して楽しい時間になると思います。

結果がどちらになっても充実した時間は成長に欠かせない大切な思い出となりました。そしてここから、仲の良かった塾の友達と同じ中学での新しい生活がはじまり、また楽しい思い出を作っていけることに、本当に感謝しております。

本当にありがとうございました。

2/20

受験が終わり、塾に行かない日々が少しさみしいそうです。

Eさん

「最高の授業!!!」

進学先：武蔵中学校

ぼくがシグマ TECH に入ったきっかけは友達からのすすめでした。4年生のころからいろいろな塾を転々としていましたが、自分に合った塾が見つからず、どこも1年もたたずにやめてしまっていました。自分に合った塾を探しているその時に、仲のいい学校の友達に紹介されたのがTECH でした。

TECH での授業は先生も面白く、先生への質問もしやすく、仲間や先生と一緒に授業を進めている、学んでいると実感できることが多くありました。塾に行くのを面倒で大変なことだと思っていましたがTECHの授業を体験してから、塾に行くのが楽しくなり、受験前には自学室にも通うようになりました。そのおかげで、これまでまったくやっていなかった塾の宿題を少しずつ進めることができるようになりました。

僕が1番好きだった授業は算数でした。難しい問題を解けたときの達成感があったし、先生がたまに出してくれる思考力系の問題が面白くて、夢中になって解いていました。

6年生の前半には、日曜日に算数の得意な人だけが集まって難しい算数の問題を解くスーパー算数にも通いました。そこでは協力して難問を解いたり、グループ、個人ごとに競い合ったり、問題を楽しく解いていくことができました。また、スーパー算数で出されるレインボータイムの問題も好きでした。僕が算数を得意になり、算数で他の教科を補える点数をとれるようになることができたのは、スーパー算数のおかげだと思います。

逆に社会は苦手科目でした。知識を覚えるのが全体的に苦手だったので、社会に出てくる用語や、人物の漢字を覚えられなかったからです。

しかし、社会も嫌いではありませんでした。ぼくは知らなかったことがどんどん分かっていくのが楽しいと感じるタイプだったので、漢字も間違えたら10回書くなど練習量を増やすことで覚えていました。

6年生後半になってくると、まとめの授業も多くなっていき、志望校や過去問の話も先生とするようになっていました。もともと受験ということにあまり実感がなかったので、第1志望校もずっと迷っていたのですが、様々な学校の文化祭や説明会に行き、最終的には自由な校風と図書館の大きさ、大きな人工芝の校庭などの理由で武蔵中学校に決めました。友達と同じ学校に行きたいというのも理由の1つでした。

9月からは志望校別にゼミが始まりました。1，2週間に1回 Zoom で授業があり、それぞれの教科ごとに先生が志望校に特化した授業をしてくれました。やることは過去問の見直しとポイントの解説、類題を解くなどですが、解説1つ1つにも先生が面白いたとえを使って説明してくれたり、写真や資料、実際のもの（コンデンサー【電気をためることのできる道具】など）などを見せてくれたり、とても理解が深まりました。

理科では、先生が作った問題（武蔵特有のお土産問題【学校は観察問題と呼んでいる】がほとんど）を出してくれて、そのお土産問題で使うものを封筒にいれて準備してもらったりと武蔵の独特な問題にしっかり対応してくれて演習しやすかったです。

1月受験では栄東、開智所沢を受験しました。行く校舎を間違えたりとトラブルはありましたが、無事にどちらも合格することができました。1月受験で受験の感覚に慣れることができたので、本番でも緊張しなくてすみました。特に、本番前の Zoom 応援で先生から「ミスをしないように気を付けよう」「自分が解けない問題はほかの人も解けないから大丈夫」などの言葉がもらえ、元気が出ました。試験会場で友達にたくさん会ったことも自分の力を十分に発揮できた理由の一つだと思います。

１日の武蔵では、いつも得意だった算数で解けなかった部分があったことが気がかりでしたが、壮行会で言われた「受験で失敗したと思ったことがあっても、午後、明日にある次の受験に集中しよう」という言葉を思い出し、パフォーマンスを落とさずに２日目、３日目を迎えられたと思います。

１日の合格発表は3日目の海城の入試が終わった後すぐに見ました。パスワードや受験番号を打っているときは試験を受けているときよりも緊張しました。

意を決してボタンを押すと合格という赤文字が現れ、安堵しました。終わってみれば受けた6つの学校すべてで合格して、楽しく受験を終えられたと思います。教えてくれたたくさんの塾の方々、受験勉強を近くで支え、見守ってくれたお母さんお父さん、一緒に励ましあい、競い合ってきた塾の友達へ

本当にありがとうございました!!

Ｆさん保護者さま
「キセキ」

進学先：広尾学園中等部

受験校までの道で一緒に聞いていた音楽が頭の中を駆けめぐる。

１月受験校は、夏から TECH で数回過去問を解いていた栄東にしました。8月、9月時点で合格最低点をとれていたためです。同日午後の淑徳与野医進は得意な算理2教科で、通学可能な距離の学校であり、午前午後入試の練習にもなると考えました。

1/10栄東（受験会場は栄北高校）は、電車で大宮に降りたところで、「吐きそう」とビ ニール袋に吐き、さらにトイレでも吐いてしまいました。しまった、車酔しいやすい体質だったのを忘れていた。花まる野外体験（サマースクール）でも南浦和集合の時に電車に酔って吐いたのだった。吐いた後はスッキリして何事もなかったように過ごすこともよくあり、 今回もそうであることを祈りました。

しかし、今回はこれで終わりませんでした。国語、算数の時間中にもトイレへ吐きに行き、問題を考えるどころではなく、考えず解ける問題くらいしかできなかったようです。体調の悪い中よく最後まで頑張ったよ。

少し良くなってきたとのことで、午後の淑徳与野は受けることにしました。昼食をとる元気はなく、脱水症状にならないよう温かい飲み物を持たせました。学校に保健室受験可能か聞いてみたところ、用意はないので受験できないと言われ別日程への振替を提案されました。本人は算理2教科で受けたい気持ちが強かったため、熱とかインフルとか感染性ではなく周囲に迷惑をかけるものではないと伝えたところ、通常教室の１番後ろのドア近くに席を変更してくれました。算数の時に１度トイレに行って吐いたようです。試験の注意書きに一度退出すると戻れ ないと書いてあったのですが、事前に伝えていたからか配慮していただけたのかもしれません。

結果は、どちらも不合格でした。淑徳与野は体調が悪いなりにできたと本人が言うので期待していましたが、少し足りませんでした。

6年生の天王山の夏期講習、確認テストもよくでき、サマチャレでは自由が丘校のスーパーホンキングに選ばれ、とても充実した生活を過ごせました。夏休み明けの模試で少しは成果が出るかなと期待しました。

しかし、9月の模試は計算ミス、読み間違いなど凡ミスで結構落としてしまい、思っていたほどの成績はとれませんでした。9月、10月は、学校行事が目白押しで、日光修学旅行のイベント企画、職業体験、委員会活動（放送委員長）、運動会の表現の 振付け担当など、どれも手を抜かないで100%やりきる姿がありました。受験校の文化祭見学や模試もあり、忙しい日々でした。

課題も空いている時間でできるものに取り組むしかなく、朝早く起きたいと本人は願っても眠気には勝てず、朝T 朝 TECH も参加できなくなっていました。毎日9時間は必ず寝ていたと思います。親の口癖は「早く寝て!」でした。

秋以降に伸びてくると期待していましたが、それ以降も「時間内に解こう作戦」が裏目にでたり、問題を読み飛ばしたり、合計点を平均点と思い込んだりとミスを連発し、理解できているはずなのに思うように点数にあら現れませんでした。

そして最後の模試12月、本人は「最後だから頑張る」とやる気満々で挑みましたが、結果は今までで１番悪いものでした。夏以降、次は、次こそはという期待とは裏腹に毎月模試の成績が下がり続けました。娘も「どうしたら

ミスしないのかわからない」と何度も言っていました。凡ミスするのも実力のうちです。

12月の模試後、基礎を忘れてしまったのではと不安になりました。私の不安は極力娘には見せないようにし、M 先生には、模試の結果が最悪だった時、算数の過去問で初歩的な問題をミスした時など、逐一ご相談させていただきました。そして、その都度適切なご対応をいただき、その度に見守ろう、任せようと心落ち着かせてきました。

模試の結果に対しては、娘の残念な気持ちを受け止め、私から責めるようなことはせず、先生から娘に適切なお声がけをいただきました。残念なミスが多い点も、丁寧に取り組んで精度を上げようと話してくださいました。

体調不良とはいっても、1月の埼玉2校がダメだったことで、娘の力が落ちているのではと焦りました。M 先生は、「栄東に受かる実力はある」とおっしゃってくださったのですが、12月の模試、淑徳与野の不合格から、母親の私が自信をなくし、千葉で確実に受かる学校を受けた方が良いのではとも思いました。最終的に「娘さんを信じてあげてください」という M 先生の言葉に後押され、もう一度栄東を受けることにしました。これが正解でした。

今回は体調万全に臨んだのに国語の試験中に腹痛でトイレに行ったと聞き不安になりましたが、結果は合格。前受け校の合格がこんなに私の心を落ち着かせ、精神安定剤になるとは思いませんでした。

後から振り返ると9月～12月の長いスランプを脱したのは、この時だったのかもしれません。また、埼玉受験はこの子なりの体調の整え方、前日の寝る時間、朝食の種類・量、起きた後の過ごし方、薬の持参など、様々なシミュレーションになり、 大切な練習になりました。

2月1日まで、残り2週間。2月のスケジュールは、2/1午前午後: 三田国際（IC）、2/2午前: 洗足学園、午後: 広尾学園（医サイ）、2/3午後: 三田国際（MST）にしました。

12月まで模試の結果が思うように伸びなかったこと、三田国際は難化傾向（偏差値上位層の希望者増）と聞いたので、12月の面談時に相談し、安全を考慮して2/1午前も三田国際に変更しました。志望順は、1, 三田国際（MST）2, 広尾学園（医サイ）3, 洗足学園4, 三田国際（IC）です。相談の上、最終的には本人が決めました。

洗足の過去問はなかなか難しく、特に国語は難易度が高くて受験者平均にも届かないことが多かったです。しかも得意な算数の思考力問題は全く出題がなく。洗足の問題は娘には合わないことは認識していました。娘に対して「洗足は難しいから、厳しいんじゃない？」 と何度喉まで出かけたことでしょう。素晴らしいことに、娘は全く諦めておらず、 最後の追い込みで洗足対策を集中してやると自分で考え、過去問をやり込みました。

最後の伸びが目に見えて表れ、国語が受験者平均を数点上回ることも出てきて、理社も上がってきました。

そして本番数日前に、4教科の合格者最低点に届いたのです。大人は自分の現在地と目標との差がよくわかるだけに、やる前にこの壁は厳しいなと予測してチャレンジしないことがありますが、大人の判断で「難しいからやめよう」と言わなくて本当によかったと思った瞬間でした。そして、厳しい状況に立ち向かい自らの力で克服する姿を見て、本当に大きく成長したなと感動し、この成長を見ることができたことで（合否が出る前ですが）この子の中学受験は成功したと感じました。

2月1日

快晴の朝でした。緊張をほぐすため、電車で酔わないため、お気に入りの音楽をイヤホンでずっと一緒に聞いていました。用賀に降り、三田国際の手前で入試応援の Zoom に繋ぎました。いろんな先生から応援をいただき有り難かったです。なんと、K 先生（年長から小3の花まる学習会の教室長）も。「100点より100%」とお声がけいただき、シグマ TECH の入塾テストを受ける時にもそう応援いただいたのを思い出しました。緊張している様子はなく、今回は体調万全でここまで連れてくることができた、あとは本人がやり切ってくれればという思いでした。

三田国際、午前午後の受験を無事に終えました。今回は途中でトイレに行くこともなかったと聞き、ほっとしました。私から試験の感触はあまり聞かないようにしていたのです が、娘から「午前の算数は簡単で時間が15分余った、午後の方が難しかった」と聞きました。過去問はかなりできていたし、まあ大丈夫かなと感じていました。

午前の合格発表は当日22時で、明日も早いため娘は発表を待たず21時すぎに就寝する約束でした。寝る前に、娘と一緒に明日の洗足→広尾のスケジュール（何時集合、昼食をどこで食べて、 どう移動して）確認をしました。

合格発表まであと少し。三田国際は私自身、とても気に入っている学校なので、ここで合格をもらえるとひとまず安心。この後の受験（2/2、2/3）に心の余裕を持って臨めると考えていました。そのために、2/1午前は洗足ではなく、敢えて三田国際としたのです。そして、22 時…緊張しながら、インターネットにアクセスし、受験番号を入力。ここをクリックしたら結果がわかるところで、やはり緊張と怖さですぐには見れませんでした。覚悟を決めて…。よしっ。

…［残念ながら、「不合格」です。］

グレーの画面に、「不合格」の文字がありました。…動揺しました。埼玉受験が終わったあと、洗足は難しいと考えた私は、三田国際の2/1午前が不合格だったら、2/2午前は田園調布に変更してはどうかと、M 先生と娘に相談していました。そして OK をもらっていました。

23 時59分までに手続きすれば田園調布を受験できる。けれど、直前2週間の洗足過去問に対する娘の熱心な取り組みを見ていて、洗足を受けさせてあげたいという気持ちがありました。本当に悩みました。

三田国際の午後の結果は明日の午後にならないとわからない。2/1午前がダメだったから、午後も厳しい結果かもしれない。午後の問題は難しかったと言っていた。午後の方が受験者は多いし、レベルも上がるだろう…頭の中は混乱していました。2/2までに合格がひとつもない状態で2/3の第一志望（三田国際 MST）を迎えるのは避けたい…直前、洗足の過去問の結果が合格最低点を超え、伸びてきていることを実感し、合格の可能性が出てきたと感じていたので、本当に苦しい決断でした。

チャレンジさせてあげたい、今まで「できなくてもチャレンジすることが大切」と言って娘を育ててきました。ここでチャレンジさせてあげられないことを後悔するか、それともどこも受からなかった時に後悔するか…。

娘の受験全体像をよく把握していない主人が、「明日午前に洗足を受けて、2/2午後に広尾学園ではなく、もう一度三田国際を受けるという手もある？」という提案をし、「一度しか受験機会のない第二志望を受けない策はない。」と即却下するなど、混乱を極めました。

最終的には、事前に用意した計画通りに進めるべきと考え、田園調布を受験することにしました。M 先生の Comiru の返信も「田園調布にしましょう」とあったことが、決め手になりました。

2月2日

朝、娘に三田国際が不合格だったことを伝えなければなりません。そして、洗足ではなく田園調布に行くことを。娘は泣いて暴れるんじゃないかと思いました。予定の時間に私は娘を起こし、真剣な顔で（娘じゃ寝ぼけ眼で）「聞いて」と娘に言いました。

「あのね、田園調布に行くことになりました」

「残念ながら、三田国際はだめだったの」と。

娘は、無表情で反応が薄くて、返事もなくおとなしかったです。その後も、田園調布学園に着くまでずっと静かで、言葉がほとんどない状態でした。

朝の様子をコミルで M 先生に連絡したところ「自信を失っているかもしれないので、ゆっくり丁寧に話をします」と返信をいただきました。Zoom 応援で、元気のない娘に自信を取り戻せるように話をしていただき、笑いも引き出していただき、娘は試験会場に向かいました。

田園調布が終わり、午後の広尾まで時間はたくさんあったので、ゆっくり過ごせるレストランに入りました。そこでお腹を満たした後に、娘がぼそっと弱音を吐きました。「三田国際の IC がダメだったら、第一希望の MST には受からない。」

そうか、テンションが低い本質はこれか！ やっとわかりました。「試験のタイプが違うし、あなたの得意な算数・理科で思考力問題だから大丈夫。難しい問題かもしれないけど、みんなはもっともっと難しいと思っているから」と励ましました。不安を吐き出せたことが良かったようで、午後の Zoom 応援は元気に先生方と話ができていました。

広尾学園に着いて、普通に娘を送り出しました。その後すぐ、三田国際の午後の結果を確認しました。「あなたは、本校の入学試験において、インターナショナルクラスに合格されました」。前回とは変わって、ピンクと赤字で合格のお知らせでした。

良かった。本当に良かった。安心しました。極端なこと

を言うと、もうこの後の結果はどうなっても良い、ここで終わりでも大丈夫、と思えるほど心配・不安・緊張が吹き飛びました娘の本命はここからなので怒られます笑）。

私は受験スケジュールを立てる時、三田国際を午後から午前に変更すると午前は受かるだろうと安易に思っていたので、2/1午後はどうしましょうか、広尾とかもありますか？と M 先生に相談したところ、「広尾はかなり偏差値が高いから、午前・午後とも三田国際が良いのでは？」とアドバイスをいただきました。結果、M 先生のご判断が本当に正しかったです。ありがとうございました。

夜、22時に田園調布の合格発表があり、合格をいただけました。

2月3日

午後、三田国際（MST）に娘を送り出しました。その後に広尾学園の合格発表をネットで確認しました。自分の受験番号を探すタイプの発表でした。昨日の試験後の娘は、算数はできなかったところはひ一つ、部分点が一つあり、見直ししてミスを見つけた、などコメントがしっかりとしていたのでちょっと期待していました。 なんと、娘の番号がありました!!合格!!やった!!

すぐに M 先生にコミルでお伝えしました。後で聞いたのですが、先生は Zoom 応援の直後で、Zoom に繋がっているのを忘れて、TECH の先生たちの前でガッツポーズしたそうです（笑）。

田園調布の問題を後から見せて教えてくれたのですが、算数の大事なところにしっかり丸をしたり、線を引いたりしていました。今までできなかった「丁寧に読んで聞かれたことに答える」が、2/2 午前の田園調布でできるようになり、午後の広尾学園でもできたのだと思います。三田国際第1回に落ちたことが次につながり、怪我の功名でした。

2月4日、MST の合格発表の日。結果は、残念ながら不合格でした。「MST はギャンブルだよね」と主人が。過去問は比較的よくとれていたのですが、時に理科で大きく外すことがありました。一度だけのチャンスなので、運の要素もありますね。直後は落ち込みましたが、娘の切り替えは早かったです。医サイに行きます!!理科の研究がしてみたいという希望が一番なので、希望は叶いました。良かったです。

2月5日

実は、まだ受験は終わらず…2/2 の午前に受けるはずだった洗足学園を受けました。1月の後半に一番頑張って洗足対策をやったので、1度も受けないで終わりたくない、との本人の強い希望のためです。

終わった後の本人のコメント「楽しかった！ 算数は難しいけど、楽しかった！」。もう、あっぱれ!です。

3年間本当に楽しみながら勉強ができました。模試の成績が思わしくない時もマイペースに楽しむことができていたように思います。TECH の先生はどんな時も娘に寄り添って、力になってくださいました。本当に感謝しかありません。先生、お友達に恵まれた、本当に幸せ な受験をありがとうございました。

TECH が始まったのは、娘の姉が小5になるタイミングでした。 4つ歳下の娘は、小さい頃から姉と同じことがしたくて、何にでも臆せず挑戦する子供でした。2歳でジャングルジムのてっぺんに登ったり、いろんなことをやりたくて、年中で早く小学生になりたいと七夕の短冊に書いたり。花まる学習会は年長から行き始め、小1になったらサマースクールも大喜びで参加しました。小さい頃からとにかく何にでも全力で楽しんでいました。やりたいことがどんどん増えて、ダンス、スイミング、英語、囲碁をやっていました。

TECH 自由が丘校は4年生から入ることができました。

TECH の授業は週 2 回算国理社がどちらの日にもあるので、授業・課題、授業・課題を繰り返すことで、算数はほぼ毎日、理社も週に4、5日は取り組んでいました。算数は1回目の授業で基本を習い、課題をこなして理解を深めた後に、次の授業で応用を習うというサイクルがとても合っていました。課題と確認テストで自然に定着したと思います。

また、バツ解きの大切さを最初から指導されていたので、間違えた問題をもう一度解く習慣が早くからできていました。夜テックの存在も貴重でした。わからないことをすぐに聞けるのはありがたいです。

6年生の前半、質問力アップシート50枚を全て埋めることに（密かに）チャレンジして、達成していました。質問は、算数と理科が中心でした。わからない問題をカメラ

で撮り、解説のここまでは理解できているところに「OK」、この先がわからないから「？」 と書いて質問できていました。

TECH の3年間で、自学ができるようになりました。朝は弱いですが（笑）。課題のスケジュールなどは一緒に相談して決めていましたが、4年生の頃は家で教えたり、5年生の4月ごろからはわからないところは夜 TECH や対面授業で質問するようになり、家ではほとんど教えることがありませんでした。6年生の後半は、娘が一人でやっていました。過去問の丸つけは母が担当しましたが、解説読みは自分でして、わからなかったら先生に聞くことができていました。思考力系の問題は一緒に考えることもありました。

三田国際の理科の過去問の「あなたのアイデア」について議論したり、今年のノーベル賞が出題されるかも！とAI やタンパク質の構造について一緒に調べたりしました（残念ながら、出題されなかったようです）。そのあたりは、親（私も主人）も楽しんでいたなあと思います。

自学ができるようになってきたとはいえ、まだ小学生なので、放っておくと目先の楽しみに没頭しいつまでたっても課題は進まず後回しになります。そんな時も「勉強しなさい」は言わないようにしていました。その代わり、「何時からやる予定なの？」と聞いて、本人の口で開始時間を宣言してもらっていました。その時間が過ぎることもよくあり、「あれ？今何時？」「もう〇〇時だよ」という声掛けはしていました。その声掛けの後は、自分から決めた時間になったので始めなきゃと思えて、行動できていました。

行きたい学校を複数持てたことも幸せな受験の要因になったと思います。娘の受験は親にとって2回目で長女の事例を経験していました。長女が進学した中学は、第一志望ではありませんでしたが、アクティブラーニングを重視され、チームでのプロジェクトなどを経験でき、長女は深い対話ができるようになりました。どこの学校に行ってもそこで楽しみ、成長することができるとわかりました。

そのため、娘に対しては長女の時と比べて寛容な気持ちを保てていました。行きたい学校を複数持つといアドバイスもいただき、いくつか候補にしましたが、本当にどこの学校も良くて、どこに行っても娘は学校生活を楽しめると考えていました。そのため、親も心の余裕を持って（6年生の秋くらいまでは（笑））娘を見守ることができました。

・TECH の良いところ

他の塾の場合、周りの生徒はライバルになるのでしょうが、TECH は同じ教室の生徒は仲間で、みんな一緒に頑張ろう！というところです。お友達ととても仲良く、教えあったりする環境がとても素敵でした。

・日曜探求について

娘はもちろん、私自身もとても楽しみでした。本の授業はしっかりメモをとってすぐに図書館に借りに行きました。先生のおすすめで娘が熱中したのが、「晴れた日に図書館に行こう」です。ミステリー系は怖いイメージがあって敬遠していた娘が、先生にこれは怖くないと言われて手にとり、全巻読みました。

社会の日曜探求は、毎回の内容が本当に深くて面白かったです。 TECH 卒業生向け日曜探求イベントを是非開催してほしいです。絶対に参加します。

・国語の個別指導について

M 先生には本当に感謝しています。I 年間わかりやすくご指導いただきました。授業でできなかった過去問も解説を丁寧に詳細に記載していただき、直前に先生の解説を見て、解き直しして本番に臨みました。

模試が散々な結果でも気にしない、過去問が重要と強調してくださいました。そして過去問を繰り返すうちに慣れてきて本当に点がとれるようになってきました。特に三田国際の国語は独特で、必ず自分の意見を問われました。最初は時間内に解ききることもできなかったのに、丁寧なご指導で、「あなたの考え」は得意！と言うまでになりました。

急遽受けた田園調布でも「あなたの考え」が出題され、きっちり書けたようです。また、広尾の医サイの国語も最初4割くらいしかとれていなかったのですが、直前の過 去問で6割とれて自信になり、本番では「できた！」と言っていました。先生のご指導が 実って合格をいただけたと思います。ありがとうございました。

・算数の個別指導について

生徒から大人気の M 先生は、本当に生徒の心をつか

むのがお上手で、娘も M 先生の説明はわかりやすいと何度も話していました。6年生からは個別でも見ていただきました。娘の得意分野、苦手分野を理解されていて、志望校を見据えてどのような対策が必要かをご説明いただきました。本当に生徒のことをよく見て理解してくださっていると感心するばかりでした。

算数が得意ではありますが、図形は大好きなものの、数の性質、場合の数は弱点でした。「余りの問題とかあやしい」と言われた時もその通りで、3年生の余りのある割り算でちょっと苦労したのを思い出しました。場合の数も遠回りな解き方をしているとご指摘され、6年生前半でそのあたりを強化していただきました。

また洗足の過去問に苦慮している時に、娘は時間をかければ最後の大問4、5は解けるから、1を解いた後、先に最後の大問を先に解いてみて、とアドバイスをいただき、なんとこれがはまって大成功！7割とれたのです。三田国際、広尾のために思考力問題集も用意して対策していただきました。

広尾の医サイの今年の問題は、数（規則性）・場合の数で、例年よりも易化し、合格者平均が9割。合格できたのは、苦手分野の克服のおかげと思います。本当にありがとうございました。

受験体験記のタイトル「キセキ」は、受験に向かう電車の中で娘と一緒に繰り返し聞いた、GReeeeN の『キセキ』からとりました。花まるに入ってからシグマ TECH を卒業するまでの「軌跡」とシグマ TECH の先生、お友達にめぐり逢えた「奇跡」。TECH に通った3年は私たちの宝物です。ここまでの全ての出会いと経験に本当に感謝しかありません。

本当に幸せな経験をありがとうございました！

Gさん保護者さま
「最後の一歩は自分の力で」

進学先：早稲田中等部

【スタート】

息子には志望校合格という終着点を目指すだけでなく、受験勉強を通して勉強のやり方や真剣に取り組むことの楽しさを身につけてほしいと願い、シグマ TECH を選びました。

また、「中学受験は親子の受験」と言われますが、親子二人三脚ではなく、親はあくまでサポーターとして寄り添い見守る形の受験にしたく、シグマ TECH ならそれが叶うのではないかという思いもありました。

そうして始まった道のりですが、すべり出しがスムーズで本人も楽しんでいる様子だったため、4・5 年生の間はサポートどころかほぼ放任になってしまい、先生との個人面談の前にあわてて何をやっているか確認するような有様でした。その結果、×解きの際に解答を丸写ししていることが判明して仰天したこともありましたが、2年間はおおむね順調に過ごせていたと思います。

【折り返し地点】

最初のターニングポイントは6年生の春でした。はじめての合不合判定テストの結果を見た息子が「本当にこの学校を第一志望にするの？」と言い出したのです。
何度も見学したり文化祭に伺ったりして気に入っていた学校ですが、それは親だけだったことに愕然としました。

鉄研があるならどこでもいいと言っていた息子が志望校に興味を持ってくれたこと自体は喜ばしいのですが、代わりの学校を探そうにも「プールがないところがいい」くらいの希望しか出てこず決めあぐね、ようやく「早稲田を第一志望においてみようか」と落ち着いたのは夏休み直前でした。(最終的には8月末の学校見学と9月の文化祭を経て決めました。ちなみに早稲田には立派な屋内プールがあります…。)

6年生の夏から秋は、タブレットやテレビの視聴時間をめぐって揉めていた記憶ばかりです。家の端末類には制限をかけていましたが、小学校で配布されているタブレットには制限がかかっておらず、また親が設定することもできないため勉強しているふりをしてタブレットを触るのです。

使用ルールを決めればことごとく破られ、勉強の間だけでも離れた棚に移動しようと提案すれば激しく抵抗され、途方に暮れました。

日頃から息子には、親の意見を採用するかしないかは自分で決めていい、と言っています。けれどこの頃には何を言っても「はいはい、勉強すればいいんでしょ」とふてく

されるだけになってしまい、何を受け取ろうとも考えようともしない姿勢に私がいらだってしまうパターンが多くなってきました。

過去問対策も始まっていましたが、算数は一桁の点数しかとれないこともあるなど苦戦。難問をこなす演習が足りていないことは明らかでした。

テレビの時間を減らさず、勉強はタブレットをいじりながらでは、自分だけの演習をこなす時間がとれるはずもありません。それならばと対面自学室の利用も勧めましたが、「必要ない。絶対行かない」と、こちらも断固拒否でした。

もはや親の言葉は容易には届かないと感じ、この頃からＩ先生にご相談を差し上げる機会が増えました。 先生の視点を交えた上で本人と話していただき、大いに助けていただきました。

過去問の点数と比較して模試の判定率が悪くないことも息子がダラける要因でしたが、そういった性格も先生にはお見通し。具体的な課題の指示やアドバイスだったり、時には厳しい言葉だったり、いつも絶妙なタイミングで息子の背中を押していただきました。

【ラストスパート】

本人の姿勢がハッキリと変わったのは冬期講習明けです。

それまで頑なに足を運ばなかった自学室に冬期講習からの流れで行ってみたところ、当然のように教室はいっぱい。見知った顔が黙々と課題に取り組む姿を目にして、感じるところがあったようでした。

それからは空いている時間はすべて自学室に行くようになり、得意の社会は封印。先生のアドバイス通りに算数と理科に注力して、ひたすらに問題をこなすようになりました。自宅でも同じように机に向かい、あれほど執着していたタブレットは棚に置きっぱなしになりました。

自学室で取り組む課題が足りなくなり、「もっとない？」と自分から言い出す頃には、課題をコピーするだけの私でもわかるくらいに算数の力が伸びてきました。どうか間に合ってほしいと祈るような気持ちでした。

１月の最後、そっくりテストで好成績を収めると、「これで合格しないわけにはいかないよね。」とこれまでの息子とは違う、前向きで積極的な発言がありました。

嬉しくも頼もしくも感じ、その気持ちのまま息子も私も２月１日を迎えることができたと思います。

【ゴールを迎えて】

早稲田と本郷の合格を喜んだ翌日、息子の荷物を片づけていると、私が渡した計算プリントが出てきました。２月２日の本郷受験の朝に机に向かう時間がなかったため、「算数の前の休憩時間にこれ解くといいよ！」とあわてて渡したプリントです。プリントには、しっかりと息子が計算に取り組んだ跡がありました。

合格がわかった時にはまったく泣かなかった私ですが、これを見て涙が止まらなくなりました。

「そうか、息子はちゃんと走り切ったんだ。」

最後の瞬間まで力を尽くして走り切った証拠がそこにはありました。

終わってみれば、スタート時に思い描いていたような親が寄り添い見守る美しい？ 受験の形はまったく実現できておらず(させてもらえず)、振り払おうとする息子をひたすら追いかけるだけの3年間でした。

それでも息子は最後、自分の意志で走り抜き、自分の力でゴールにたどり着きました。そのことが何よりも嬉しく、我が家の「幸せな受験」の形はこれだったのだと今ではわかります。

シグマTECHの先生方、3年間本当にお世話になりました。すべての先生に直接お礼を伝えられないのが残念ですが、シグマ TECH で教わったこと、受験を通じて経験したことすべてが息子の中で確かに根を下ろし、これからの成長を支えてくれると信じています。 ありがとうございました。

Ｇさん

「受験は航海」

進学先：早稲田中等部

【シグマ TECH に通い始めたころ】

僕はもともと花まるに通っていなかったので、最初はかなり戸惑った。また、いきなり難しいことをやるのではないかと不安だった。しかし、カルタなどを通じて楽しく学べた

おかげで、思っていたよりも気楽に過ごすことができた。

【シグマ TECH の授業】

先生たちはいつも面白く授業を進めてくれた。授業中に笑わなかったことはほとんどなかったと思う。

課題のやり方も細かく説明されており (ノート法・丸付け×解きなど)、とても分かりやすかった。他の塾の授業も受けたことがあったが、ここまで課題や宿題のサポートをしてくれるのはシグマ TECH だけだったように感じる。

【受験生として】

冬期講習では、Ｉ先生から「今までで１番頑張った冬にしてください」と言われた。その言葉を胸に、栄東中の受験にも全力で取り組み、合格することができた。

受験直前期には、対面自学室をよく利用するようになった。僕は、良いことがあるとすぐに調子に乗ってしまう性格なので、栄東中の合格を聞いて舞い上がらないように気をつけた。

受験勉強が辛いと感じることはほとんどなく、「無」の状態でひたすら勉強を続けていたら、あっという間に2月１日がやってきた。模試で慣れていたこともあり、本番でも緊張することなく、２月１日の早稲田中、2月２日の本郷中に挑むことができた。

【受験を終えて思うこと】

本郷中の試験を終えた帰りの電車の中で、早稲田中の合格発表を見た。公共の場だったので飛び跳ねるようなことはしなかったが、心の中ではものすごく嬉しかった。万が一失敗したときのことも考えてしまい不安もあったが、今までの努力が無駄にならず、本当に良かったと思った。受験に挑戦してよかったと心から思う。

「受験はマラソン」とよく言われるが、僕にとってはさまざまな波やピンチを乗り越えながら、合格という目的地を目指す「航海」のようだった。そして、「後悔」のない受験を終えられたと感じている。

Ｈさん

「僕にとっての幸せな受験」

進学先：早稲田実業中等部

僕は4年生からシグマ TECH の御茶ノ水校に通い始めました。

4年生の頃は理社のかるたや算数の約数大富豪などを楽しみ、趣味が同じで気の合う友達と休憩時間中に話をしに行っているような部分もありました。また、課題の量があまり多くは無かったので、毎日のように学校の友達と公園で遊ぶなどして生活を謳歌していました。

しかし、この楽しんでいたカルタの理科では花や昆虫の名前と写真を一致させることに、社会では県名と県の輪郭を一致させることや人物の名前や肖像画と成したことを一致させることなど、6年生の学習や入試本番にも大きく役に立ちました。

そして5年生に進級すると4年生と比べて大幅に課題が増え、2ヶ月くらいは課題を全てこなすことができませんでした。また5年生の春頃から理科が段々と苦手になってしまいました。それに加えて体調が悪い時が多くあり、思うように過ごせず第一望校の学校見学ですら行くことができませんでした。

その悪い流れのままに進級した6年生。課題の量はあまり変わりませんでしたが、日曜日にシグマ算数特訓が隔週で入るなどさらに大変になってきました。

しかし、合不合模試で目標点取ることができるようになりを迎えました。授業前は毎日のように自学室にっていました。その自学室ではまず得意な社会を解いて、その後に苦手な理科を解くという順に嫌にならないように工夫して勉強を進めました。また、Ｉ先生から勧められた算数のステップアップ演習や理科の4科のまとめを解き進めていきました。

そのおかげで苦手だった理科の点数がぐっと上がってきて第一志望校合格に向けて照準が定まってきて、いい流れができていました。

そして迎えた10月の志望校別サピックスオープンでは、3位という好結果を取ることができました。しかし、11月の合不合模試から急に算数が落ち込み、算数の偏差

値が50台まで落ちてしまいました。そこで危機感を感じ、I 先生に相談し、演習問題集を解き進めました。
　ようやく少し上向いてきたところで1月の受験を迎えました。

　最初の受験となる開智中では、過去問練習より少し得点が下がっていたものの、合格をもらい大きな自信につながりました。そして他の学校でもその自信を元に合格をいただき、素晴らしい流れで2月の受験を迎えることができました。
　第一志望の2/1早稲田実業中学は結果発表が2/3まで出ませんでしたので、早実の結果がわからないまま第二志望の2/2明治大学附属明治中学の受験を迎えました。過去問練習の成果もあり手応えがよく、試験当日22:00の結果発表を楽しみに迎え、そして明治大学附属明治中学から合格をいただいたため、2/2で僕の受験は終わりました。

　あとは第一志望の早稲田実業中学の結果を待つだけでした。そして迎えた2/3、13:00の結果発表。緊張して迎えたその時パソコンに映し出された結果は「合格」。その時は非常に嬉しかったです。
　ですが実感はしばらく湧かず、2/5に久しぶりの学校に行った時くらいからやっと実感が湧き始め、後日制服の採寸に行った時に自分は早実生になるのだと強く実感しました。僕の中ではそこまでが、3年間の長い受験だったのだと思います。

　僕はこのように忙しい中でも学校の友達と遊んだり、ゲームの時間を確保したりできていました。毎日21：00には就寝し、朝5：45には起きて学校に行くまでの間に勉強時間を作っていたので時間を捻出できました。このように日常生活を普通に送れていたことも幸せな受験につながったと思います。

　シグマ TECH の先生方には苦しい時には相談に乗っていただいたり、励ましてくださりとても感謝しています。また、気の合う仲間にも恵まれて忙しくも楽しい時間でした。
　僕にとってこの受験はとても幸せな受験だったと思います。

Ｉさん保護者さま
「伴走コミットの花まる」

進学先：青山学院中等部

　6年生にあがる頃(2024年1月)、年長より6年間続けてきた花まるを離れるかどうか、幾度となく家族会議にて検討をしていました。併せて、本人と複数の塾に春講習のお試しに行きました。圧倒的に量をこなして上を目指すこと、「合格にコミット」をアピールする他塾に、この塾に子どもを預ければ「合格」があるのではないか、子どもの希望が叶うのではないかと感じる様になり、正直親としては心が揺れていました。これまでも、基本的に本人の意思を尊重し、意思決定をさせたいこともあり、本人に聞いて決めようと思いました。
　本人の希望は、「塾を両方通える方法はないのか」というものでした。シグマテックの課題も終わっていないのに…と感じ、理由を聞くと「授業がどちらも面白いから」。本人の受験へのこだわりや、覚悟などとは反対で、日々を楽しく過ごそうということが伝わってきました。

　「中学受験」は、そんな簡単に向き合える場所じゃないとも感じていましたし、これは受験で「合格」というものは難しいかもしれない、どこかで何かを変えていかないとな…と偏差値などでは到底測ることのできないものへの焦りでいっぱいでした。
　思い返すと、受験をしたいから塾に通い出した訳でもなく、いろいろなご縁が繋がり、本人が行きたいと言うから通っていた花まるでした。学校も楽しいが、過ごした時間では語れない貴重な居場所である花まるがもうあと1年ほど、6年生で終わるということを考えました。
中学校に行ってより面白いと思えることを深めていける、そしてそれを共有していく繋がりを作れる。そんな場所を選べるチャンスなのだと感じ、本人と共にこれからの人生をどうしていきたいかを話す場面を増やしました。どんなことしていきたいか、どんなことをしている時が楽しいか、どんな面白いお友達がいるか、たくさん話をしました。

　そんな話をする良い切り口だったのが中学校の学園祭です。中学校の見学という側面はもちろんありましたが、イベント運営の仕方や、機材、焼きそばの味や、品切れ具合など一緒に出掛けて親も仕事のヒントをたくさん

見つけながら、会話を重ねました。自分が担当だったらこうするね、ここはこうした方が楽しめるね、とっても運営が雑だな…もっとこうしたら良いのに、こんなことを話しかけてくれた!とっても嬉しかった、などたくさんの気づきがありました。そこで将来の先輩像(志望校)が見え始めました。

そんな中、塾の転塾について改めて考えました。「合格」できたら本人の将来の可能性も開ける先もあるだろうし、本人も転塾しても楽しくやっていけるだろう、中学の情報量的にも戦略的に攻めるのだったら良い材料も貰えるだろう…ん?でも、本人の小さい頃から今までを知ってくれている先生はいなく、先生とのコミュニケーション作りもゼロからになる。これって、塾のどんなサービスや情報、わかりやすい授業、授業量よりも重要ではないか、と背筋がぞくっとしました。

なので、ここで決めました。他塾に比べて◯◯だからという部分はあるかもしれない、けれど、足りない所は親が頑張るから花まるにしよう。なんとなく直感でしたが、決めました。親がしっかりとコミットしようと、決めました。すると怖いものが無くなるどころか、怖いものばかりになりました。

毎日、朝テック、夜テックしているから大丈夫と思っていたらノホホンと過ごしていたり、気づけば読んだ回数が30回は超えたはずの日本の歴史、世界の歴史を読んでいたり、トイレに行ったら帰ってきません…確認テストも、満点を喜んでいたらすぐに不合格と、横にいないと遊ぶ(親から見たらそれなりにお勉強だとも思えましたが)ようになりました。半年前まで課題だった本たちが全部裏返しになり、ロックがかかった日には泣いて悲しむ本人を見ると、もう苦笑いも出ず、顔はひきつってしまいました・・・。

けれど、決めたことなのです。塾にお任せしているからのような考えは持たず、自身の仕事のレベルを超える細かさで進捗管理をマクロ、ミクロそれぞれの観点で追っていました。これを自慢げに言うと、塾では何もやってくれなくって、自身で乗り越えたという自慢話になってしまいそうですが、決してそうではありません。そんな親と一緒に歩んでいただいたシグマ TECH の先生がおられたのです。

何か大きな決断や進め方に不安がある時はもちろん、これは把握してもらいたいなということが発生すると、都度アポイントをいただき、足繁く校舎にお伺いしていました。これは他塾では受け入れていただけなかったと思いますし、会話を通して本人への向き合い方や、本人の授業における理解度の引き継ぎなどもでき、結果として本人にとって必要な球を大人が話し合ったことで提供できたと思います。

一般販売されている10万円の教材を使ったけれどイマイチで、しばらくはもやし生活ですとお話をしたこともありました笑。
そんな関係を築けたからこそ、最後の最後まで最適な志望校への攻め方を一緒に考えることができたと思います。コミルを通したチャット状態の「お問い合わせ」、あまり思い出したくはありませんが、甘い青春時代の思い出の様に大切にしたい思い出です。預けてあとは任せるということはできないかもしれません。ですが、必ずびっくりするぐらいホールドしながら、ぎゅっと足を結んで伴走してもらえる、それが花まるグループ、スクール FC、シグマ TECH だと思います。

中学受験が決して甘い戦いではない世界ということは、受験を終えた今だからより一層実感できます。充実した受験生活だけではなく、最後の最後までやり切って納得できるかどうか、それは本人、ご家族次第だと思います。そんな横にシグマ TECH がいてくれて本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

そのように一緒に背中、いや全身を全身でサポートしてくださる花まるの皆さんが、今後もより多くの子どもの成長に関わってくださることが、新しい世の中が生まれることにワクワクし、元気をいただいています。これからも花まるグループの進化を期待しています。ありがとうございました。

Ｉさん
「二文字を見たい」

進学先：青山学院中等部

2025年2月4日（火）14時42分。入学手続きが終わ

ったことを確認し、合格掲示に自分の受験番号を見つけた時、「うそじゃなかった」と思い、心からよかったなという安心感とおわったという解放感がありました。最後まで幸せな受験ができてよかったです。

僕は年長から花まる学習会、3年生から Think! Think!シグマ、4年からシグマ TECH に通い始めました。受験は意識していなかったけれど、面白そうだなと思ったコースを毎年選んでいたら、受験をすることになりました。そのため、4年生の頃は志望校がなく、なんとなく授業を楽しんでいました。5年生になり学校見学をすると、面白そうな学校がたくさんあり、一つに絞れない、せめて2つくらいは掛け持ちで通いたいと思いました。最後まで、第一志望校を2校にし、両方全力で取り組みました。

僕はシグマ TECH が最高の場所だと思います。難しい問題ができるようになる面白さや、仲間と意見を言ったり、競い合ったり学ぶ楽しさを知りました。さらに嫌なことや苦手なことにも向き合えたことが自分を成長させてくれました。

6年生になると、合不合判定テストで算数の偏差値が4下がり、このままで大丈夫かとても不安になりました。算数の個別指導でも、何度も同じ間違いを指摘され、先生もどうしようか悩んでいるようなような気がしました。問題を見て自分ではわかったとても、聞かれたことに答えられていないことばかりでした。

指導された内容を7つの大罪としてメモし、次の問題を始める前にメモを見ること、何度も間違いがないか確認することをしました。すぐにできるようになったわけではありませんが、答える前に間違いに気がつくことが増えてきました（式は左からそろえて書く、聞かれたことに答える、単位に注目する、合同を疑うなど、実際には7つ以上あります）。

夏休みは、自分だけの課題として、プラスワンのテキストを徹底的にやり込みました。そのおかげで9月のテストで、偏差値が6上がり自信がつきました。

秋からは、国語を重点的に取り組みました。僕は本を読むことが好きです（夏休みは、TECH 文庫の本を毎日借り、楽しみました）。ただ、国語の問題に答えるのは苦手でした。個別指導を受け始め、何度も質問されたときに根拠を説明できるよう、以前より問題文を何度も読んで答えるようになりました。そのおかげで、これまで感覚で答えていたことがわかりました。

1月の埼玉受験は、模試のような気持ちであまり緊張せずに受験しました。絶対に合格していると思える手応えで、帰りにオムライスを食べました。もし通えることになったら、また行きたいなと思いました。

数日後、パソコンで結果を見たところ、「不合格」でした。本当にびっくりしました。もしかすると読めない文字で答えを書いていたのか、質問に正しく答えられていなかったのか。これまでずっと注意されていたことが、できていなかったかもしれない、と思うようになりました。不合格の文字を見て、「この三文字をもう見たくない」と強く思いました。苦手なことにもそれなりに取り組んできたつもりでしたが、まだまだ足りなかったと感じました。

それからは、今不安なこと（場合の数、詩の読解、近代の年号暗記、漢字人物名、植物の暗記）を書き出し、苦手なことに挑みました。丁寧に数字を書くこと、楷書で漢字を書くこと、問題文に線を引くことは最後まで苦手でしたが、少しずつできるようになりました。

3文字の言葉を見てから、試験を受けるときに緊張するようになりました。2024 年の過去問の点数がいつもより良くなかったので、特に試験本番は不安でした。試験の直前に先生からの応援で「いつもと同じように頑張ろう」と思えました。悪かった模試の次は頑張っていつも良くなっていた、僕は忘れ物をしても必ず見つけられた、という自信もあり、なんとかなると思えました。

本番は、適度な緊張感で試験に臨めました。心配な問題もありましたが、時間内でできることはやり切ったと思えました。翌日、別の受験を終えた帰りの電車で結果を見ました。「合格」の二文字を見て、「よしっ」と声が出ました。

最後にこれから受験をする方に向けて伝えたいことがあります。

◆4年生へ

理科のカルタはとても大事です。知識にもれがあると、6

年生になっても覚えることができず、その分野が出ないことを祈るしかできなくなります。カルタは全部覚え切るまでくり返ししましょう。

◆5年生へ
QA ノートは、自分のわからない問題や忘れやすい問題を書いておくようにしましょう。
Q：太平洋戦争の降伏文書はどこで調印しましたか。
A：アメリカの戦艦上
これは僕の6年生の6月のQAノートの一節です。意味のない問題を無理やり作っていました。翌月から真剣にQA ノートを書き始めたところ、社会の成績が上がり、キープできました。受験当日も持っていき、休憩時間も役立ちました。

◆6年生へ
試験は、振り返りがとても大事です。何ができなかったか分析し、苦手なことにも向き合いましょう。午前午後で模試を2つ受けていたことは、自信になりました。

Ｊさん保護者さま
「悔いのないように」

進学先：東洋英和女学院中等部

シグマTECHでお世話になろうと決めたのは、中学受験をゴールとする詰め込み勉強ではなく、将来の学びにつながる勉強方法を身につけ、どんな結果に終わっても成長を喜び、納得できる受験にしたい親の思いと合致したこと。それから、本人が幼稚園の頃からお世話になっていた花まるの先生方が大好きだったからです。

また、兄が他大手塾で受験を経験していますが、2人は全く違うタイプであり、非常に負けず嫌いな娘は比べられる(または自分で比較できてしまう）ことが勉強のやる気に影響してしまうことを懸念し、違う塾の方が良いだろうと考えました。

ところが、敢えて兄とは別のシグマ TECH を選んだにも関わらず、兄での経験、特に成功体験の部分を娘にも活かそうとして焦ってしまいました。この時期にはこのくらいまで進んでいた方が良いのではないか、これくらいは勉強した方が良い、などです。精神的な成長具合、性格、勉強スタイルから得意科目まで、全く違うことを認識していたにも関わらず。これは、本人も親自身も苦しめることになりました。

6年生の春、急降下の一途を辿る成績が苦しく、先生に相談させて頂きました。先生からは、「お兄さんと同じような勉強法をやらせようと思えばできますよ。けれど、なぜ、シグマ TECH を選ばれたのですか?」と言われました。今思えば当たり前のことをおっしゃっていたのですが、目の前の下がる一方の成績にしか目がいかず、焦ってしまっていた私はハッと我に返った思いでした。

この時期は志望校をどうするかも大きな問題でした。本人の憧れの学校には全く届かない成績で、−10 どころではなかったので、このまま目指して良いものか迷いました。本人は受かる学校で良い、と言いましたが、どこでも良い、ではどこにも受からなくなりそうだと心配でした。

先生は本人の憧れを尊重して、「志望校を変えずにいきましょう」と言って下さいました。ここで志望校を変えることでさらにやる気を失わせるのは避けたかったのもあり、チャレンジさせることにしました。一方で、行きたいと思えるような学校をいくつか探しておきました。

こうして腹を括ってからは、どんな結果になろうとも、悔い無くその結果を受け入れられるように、ということを一番に考え、憧れ校を目指して本人に合った勉強スタイルを模索するようになりました。

先生に頻繁に相談させていただいて、宿題の優先順位や、課題以外にその時々でやるべき内容を決めていき、先生からも本人に伝えて頂くようにしました。自ら進んでどんどん勉強する、とまではいきませんでしたが、本人が納得しながら勉強に取り組むことができるようになりました。

憧れの学校を目指して自分で納得して勉強することが功を奏したのか、夏頃からは成績は上向きになり、頑張った結果が目に見えるとやる気も出てきて、好循環が生まれていると感じることができました。

夏休みには勉強スタイルが固まり、オンオフのメリハリがはっきりとし、休憩時間になると絶対に勉強はしない。大好きなテレビ時間は確保していましたが、勉強時間には集中して勉強できるようになりました。

少しずつ手応えを感じてはいたものの、まだまだ手の届くレベルには達していませんでした。にもかかわらず、秋になって、憧れ校よりもさらに上の学校にもチャレンジ

したいと言い始めました。推薦は1月入試なのでダメ元で受験できなくもないのですが、憧れ校に全振りしても厳しい状況で、さらに超チャレンジ校対策に力を割かねばならないのは一か八かの賭けでしたので悩みました。

それでも本人の、チャレンジしたいという前向きな気持ちを大切にしたかったため、先生にご相談しました。非常に驚かれていたかもしれません。いつも淀みなく返答してくださる先生が言葉を詰まらせておられました。

しかし、先生はここでも本人の気持ちを尊重して下さり、対策のための指導や力配分のアドバイスをして下さいました。そして、安心して超チャレンジ校、憧れ校に絞った対策をできるように安全校をいくつか受けることにしました。

ここからは、受験をしなければ合格確率0%と自分にも言い聞かせながら、娘が悔いなくチャレンジできるように伴走しようと決めました。超チャレンジ校を目指しての勉強は精神的にも大変だったと思いますが、先生が上手く気持ちを乗せてくださり、問題集をやり遂げていく達成感もあったのか、それまでとは見違える程に頑張ることができました。

一方で追い込みすぎることなく、最後までメリハリ勉強はキープしており、テレビや読書などリラックスする時間は確保していました。

年が明けても少しずつ上がっているものの、なかなか合格最低点を超えることができていませんでした。苦しい戦いですが、受験しなければ合格確率0%。受験校を変えることは考えませんでした。

先生には最後の最後、直前まで細かなところまで指導いただき、とりとめのない質問にも丁寧に答えてくださり、大変心強かったです。お陰様で本人も私自身も結果がどうなったとしても悔いはない、と思える準備ができていました。本番当日の朝にも励ましをいただいたことで緊張は微塵もなく、当たって砕けろ！ と、足取り軽く受験することができました。

結果、まさかの！ 憧れ校からの合格をいただきました。信じられない気持ちでした。最後まで相談に乗ってくださり、無謀な挑戦を温かく見守り、導き、伴走してくださった先生に本当に感謝しております。ありがとうございました。

Jさん

「身につく勉強法」

進学先：東洋英和女学院中等部

私は中学受験をして、どのように勉強すれば学習したことが身につくのか学びました。

4年生からシグマ TECH に入り、カルタなどゲームのような感覚で社会や理科を覚えられて楽しみながら勉強ができました。けれど、中学受験は楽しいだけの甘い世界ではありませんでした。5年生になると課題の量がとても増え、課題を終わらせるのが大変でした。先生方と相談して、課題の量を調整していただきながら、なんとか全部の課題が終わるようになりました。

確認テストでは、点数が取れるようになってきました。しかし、組分けテストや合不合判定テストなどでは、頑張って勉強しているのになかなか成果が出ませんでした。勉強しているのに結果に表れず、やる気が無くなりかけていました。第一志望校の判定も20%になることがほとんどでした。

勉強しているのになかなか良い結果が出ない理由が一つありました。これは、私にとって良いところでもあり、悪いところでもありました。それは、「記憶力」です。私は、算数の問題と式（やり方）をそのまま暗記していたのです。そのため、確認テストでは点数がとれても、合不合判定テストなど、問題の出方が変わると解けなくなるため、点数が取れなかったのです。

そのことに気付いてからは、母に協力してもらって問題を解いた後に私が母に解説するようにしました。その成果は徐々に結果に表れました。点数も上がり、第一志望校の判定も30%になりました。そこから、算数は他の教科をカバーできるくらいにまでなりました。

ですが、国語が足を引っ張っていました。最後まで、第一志望校の判定は、最高40%にしかなりませんでした。過去問の最低点もほとんど超えたことがありませんでした。

諦めずに最後にやった過去問でなんとか最低点ピッタリになりました。合格するか不合格になるかは、五分五分の状態でした。

そしていよいよ入試当日の朝、先生と話をして「よし頑張るぞ」という気持ちになりました。入試を終えた後「もしかしたら合格したかもしれない」と手応えを感じていまし

た。夜、合格発表を見ると結果は…合格!!!

母も一緒に見ていて、とても喜んでくれました。私は、信じられませんでした。頬をつねって夢かどうか確かめてみました。

「痛い!」「夢じゃないんだ、本当に合格できたんだ」と改めてとても嬉しかったです。

私は、シグマTECHの生徒で本当に良かったです。私の受験を支えてくれた家族、最後まで相談に乗って下さった先生方ありがとうございました。

これからも受験で得た勉強方法を意識して、中学校生活を送りたいと思います。

Kさん保護者さま

「自信なさげな少女の心の成長を見守る機会に」

進学先:湘南白百合学園中等部

中学受験は、我が子の成長を見守る貴重な機会となりました。

幼い頃から少し自信無さげな様子のあった娘。年中から花まる学習会に通い始め、先生方の声がけやサマーチャレンジでのアクティビティが、娘の心の基盤を少しずつ築いてくれました。

もともと偏差値重視の難関校志向ではなく、本人のキャラクターに合った学校選びができるといいなと思っていたことと、「幸せな受験」というコンセプトに共感し、4 年からシグマ TECH に通い始め、娘は戸惑いながらも中学受験への道を歩み始めました。

4年生後半からの学校見学で、湘南白百合学園のキャンパスや学生の姿に刺激を受け、受験への意欲が芽生えた様子でした。5年生では理数系の学習に苦戦し、一時は算数の偏差値がトコトン落ち込みました。

私もどう励ましたら良いか分からず、その時は見守るどころか「やる気がないのなら今すぐやめなさい! 」「いくら払ってると思ってるの!!」などと強い言葉を言ってしまう時期もありました。中学受験の継続を何度も話し合いましたが、娘の強い意志で受験を続けることに。

6年生になると、I先生の算数指導のもと、偏差値が大きく向上。私自身も本人と先生方に委ねる気持ちで毎日を淡々と過ごし、最終的には理数系も偏差値40台後半まで回復。得意の国語を活かし、湘南白百合学園の国語一科入試に挑戦し、見事合格を果たしました。

他にも合格をいただいていた学校がありましたが、先生にも相談をし、湘南白百合学園へ進学することとなりました。

この受験を通じて娘の中に確固たる自信が芽生え、勉強習慣も身につきました。受験初日には「全く緊張しなかった」と聞いて、心の強さを身につけた3年間だったのだなあと胸が熱くなりました。

中学受験には賛否両論ありますが、この経験を通じて娘が大きく成長したことは間違いありません。

母親としても娘の思考や行動に過度な介入をせず、見守ることを覚えました。保護者面談を通じて先生方への信頼が醸成されていたからこそ、私自身も落ち着いて伴走することができました。

学ぶ楽しさや知識を身につける面白さを大切にし、これからの人生に活かしていってほしいと思います。

先生方のサポートなしには、ここまで走り切ることはできませんでした。心から感謝申し上げます。

Lさん

「可能性は0じゃない」

進学先:攻玉社中等部

ぼくは、学年が上がるにつれて、どんどん成績が悪くなり自分でもTクラスのビリだろうと思うところまで来ました。でも僕は変わりませんでした。変わろうともしていなかったのだと思います。そんな僕にもひとつだけとても得意な教科があります。それは算数です。

これはもとから得意なものではありません。僕が算数を得意になるためにやったのは例題、類題、基本問題です。これを完ぺきにすることを意識してそのレベルの問題が出てくる毎週ある確認テストでできるかたしか確かめていったのです。

ここからは 6 年生の話です。まず、5 年生から 6 年生の節目はとくになにも感じませんでした。集中できなくて遊びたい時、僕は遊んでいました。でも、ここで必要なのはタイマーで時間を計ること。そして体を動かすことです。

これを意識しないと集中できません。また、YouTube をずっと見ていたけど、11月に「辞める」と言ってきっぱりやめました。目覚めたのでは、と思うけれど変わらずのん気にやっていました。

1月も、自学室には行っていたものの、そこまで集中した記憶はありません。でもお母さんはあきらめていませんでした。その理由として、攻玉社には四科で受けるほかに算数選抜がありました。でも、僕は過去問をほとんどやらず、「2月の1日目受かったとして算数選抜が5日目なのでその間にやろう」となんとなく思ったくらいでした。とはいえ、受ける学校の過去問を1回も解かないのはよくないので 1、2 回は解きましたが、10 問ある問題の 3 問程度しか点数が取れていませんでした。そして 2 月になったとき、第2志望校の午前、午後のテストを受けました。（※攻玉社の算数選抜は5日しかないし、受かることも難しそうだった。なので、その日までは、見学行った他の中学校の試験を受けている ）ちなみに、1日目の午前と午後の試験の間の昼ご飯は、ショッピングモールのフードコートで いろいろな理由から花まるうどんを食べました。

しかし結果は第2志望校午前、午後両方不合格。ふつうは悲しむはずなのに僕はなにも思わなかったです。

2 日目と 3 日目もその中学校にリベンジしましたが不合格。でも 2 日目の午前に受けた中学校に受かりました。僕はその中学校になるかなと 3 日目の夜に思いました。第 2 志望校3日目に受けた 4 度目のリベンジの時、1、2 日目にいた知らない子がまたいて、ぼくと同じ不合格の子が何人かいて良かったと安心してしまったこともありました。

そして5日目。僕は切り変えスイッチを入れて本気で算数選抜にとりくみました。僕は試験終わる 2 分前、1 回解いた時できなかった問題のやり方が思いつきました。でもそのやり方はとても終わりそうにないもので、残り時間を見たら時間がたりないと思い、心臓はバクバクなりながらその問題を時間ギリギリで終えました。

その後の午後試験では少し手をぬいて解いていました。算数選抜は自信がありましたが、不合格の1日目と同じような自信でした。なので、自信はかくしました。

さすがに攻玉社が受かっていたのは知った時は最高の気分でした。M先生に電話で伝えた時、電話の向こうでも歓声の声でいっぱいで、たぶん人生で1番にうれしかったです。

ここで大事な事を全部言います。

・算数はき基礎から。
・図や表にまとめる。
・国語の漢字を覚える時や文章を読む時は少し声に出す。
・休けいは、時間を計って体を動かす。
・受験をあきらめない気持ちを意地でも変えない。
・画面系からはなるべくはなれる。
・試験会場までと休けいは大量にラムネを食べる。
・試験は試験官が終わりと言った後の一秒までねばる。
・試験会場が2回目以降の場合は前にもいた人を探してみる。
・僕みたいにビリから、目標に受かることもできることを忘れるな。

つまり…可能性は 0 じゃない。

M さん保護者さま
「学びあふれる中学受験」

進学先：海城中等部

息子はシグマ TECH が大好きでした。シグマ TECH の先生方が、仲間が、授業がとても大好きでした。我が家は通塾に1時間以上かかりますが、それを支えていてくれたのは先生方と仲間の存在、そして学ぶことの楽しさだったと確信しています。

【親としてやってよかったこと】

学校見学に尽きるのですが、学校見学の前に、これから我が子にどんな力をつけてほしいのか、子育ての軸のようなものを夫婦で確認したことです。それがある程度見えてくれば、その価値観に合致しそうな学校を調べ、加えて通学（以下略）1時間以内と考えれば自ずと学校が絞られてきました。

幅広い偏差値帯の学校があることがわかり、リサーチはおもに主人にお任せしました。この学校は受験するに

は難しいというときはあの学校もある、という考えが最終的に受験日程を組む際の安心感につながりました。

はなまる子育てカレッジもよかったです。I 先生が出演されているものは全部視聴しました。そこからゲスト出演されていた方々の著書を読んだこともありました。その他興味深いコンテンツが満載で、親としてアップデートしなくてはならないことがたくさんあるのだなと感じました。

【苦労したこと】

新6年の4月辺りから反抗期が始まったことです。息子は急にイライラし、私に八つ当たりをするようになりました。理不尽な会話も増えてきました。

朝も全く起きなくなり、登校前におこなっていた計算と漢字は帰宅後ダラダラと取り組み始める始末。課題はステップ1がギリギリ終わるか終わらない程度にまで落ち込みました。

9月からの模試も急降下で落ちるところまで落ちたと思います。志望校の判定も20%ばかりでした。親として不甲斐なさを感じ、涙することも多々ありました。この時は、Zoom で I 先生と本人と主人も交えて相談しました。

「このままでいいのか。」「悔いのない受験にしよう。」厳しくも愛のある言葉をたくさんかけていただきました。ここぞというときに徹底して寄り添ってくださったのは夫婦共々本当にありがたく、中学受験にはチームワークが大切なのだと初めて実感したのがこの時でした。

【工夫した点】

失敗だらけで何一つ工夫などできていないのですが、最後の1年間はいかにして自分の機嫌を自分でとるとるのか考えました。機嫌がいいと息子に対する小言やイライラ率が格段に下がりますので、私にとってはご機嫌でいることは常に優先順位上位に位置していました。

私の場合ですが、茶道のお稽古にこれまでどおり参加し、静寂な空間で気持ちをデトックスしていました。また、美術館で面白いもの、美しいものを見て気持ちをリフレッシュしてきました。息子が夜テックに入室しているときは半身浴で汗を流すという方法もよかったです。

【受験期について】

1月の前哨戦。我が家は早くも試練を経験しました。合格できるだろうと思われていた栄東の A 日程が不合格。その次の東大特待も不合格（これは予定通り）。

先生方から励ましのお声がけをいただいていましたが、埼玉受験は次の B 日程しか残っていないことは紛れもない事実でした。

「もう落とせない」試験の前日、息子がつぶやいていた言葉でした。試験当日、とても機嫌の悪い状態でした。起きることをこれまで以上に渋り、電車の中でも「もう受験やめてやる」と言い出す始末でした。正直こんな精神状態ではきっとだめだろうと思ってしまい、絶望感で涙が止まりませんでした。

しかし、Zoom 応援（B 日程の Zoom 応援は予定外で特別に設定してくださりました。）で I 先生と話ができた後、憑き物が取れたかのようにおだやかな表情になり、「行ってくる」と言って会場に向かっていきました。

結果は合格。まるですべての受験が終わったかのように親子でホッとしました。たとえその学校に通う可能性がなかったとしても、不合格を2つ抱えながら、紙と鉛筆で勝ち取った合格が本人にどれだけ勇気を与えたか、お守りって大事なのだな、Zoom 応援ってすごいな、と身をもって感じた1月でした。

この経験のお陰で息子はやっと受験生の顔になってきました。時間にムラはありましたが朝夜テックに参加し、対面自学室にもほぼ毎日通うようになりました。

そして2月。もちろん不合格もありましたが、本人の中で本気でやり切ったという気持ちが強く、3日間笑顔で走り切ることができました。

中学受験は水物と言われますので、もう1度同じ受験をしたらおそらく全く違った結果になっていたと思いますが、我が家の場合は1月の経験が偶然にも良い方向に2月へ結びついた結果となりました。

【受験を終えて】

入試3日目に遡りますが、帰りにシグマ TECH のお友達と出会い、偶然3家族ともその日が入試最終日ということで、お昼ご飯をご一緒させていただきました。

中学受験は他人との競争や偏差値というものさしから見た評価がクローズアップされがちかもしれません。しかし、定食を食べながらその日解いた算数の問題につ

いて仲良く楽しそうに会話している彼らを目の当たりにしたとき、この子達はそんな他人との競争や偏差値とは違う次元で3年間を過ごしてきたのかもしれないと感じました。

いい仲間いい先生に出会えて本当によかった。正解のない世の中で、単に競争に勝つことよりも、人とつながり楽しめることこそよっぽど大切なのではと思った瞬間でした。

ありがとう、シグマ TECH。過酷な中学受験の中でも、息子が学ぶことの楽しさを失わず、笑顔で中学受験を乗り切れたのはシグマ TECH の仕組みと先生方のご尽力のお陰です。苦しかったけれど、学びあふれる3年間でした。これでやっと二人三脚の紐をほどくことができます。

反抗期真っ只中でかなり危うい面はありますが、これからは更に離れて見守り、私は私の人生に対して今一度向き合っていきたいと思います。

また会いましょう！ シグマ TECH で少しでも多くの家庭が幸せな受験ができますよう、心から祈っています。

Nさん保護者さま
「中学受験を終えて」

進学先：芝浦工業大学付属中等部

最後の入試と合格発表を終えて、はや3週間が経ちました。時間と課題に追われた日々から、“普通の”日常への再適応がやっと軌道に乗り始めたように感じます。同時に、2月1日からの入試の日々は遠い過去のようでもあり、今月の出来事であったことに驚くばかりです。

そんな複雑な気持ちを抱きながら、3週間たってやっと筆を取る気になれた、それが今の正直な気持ちです。

残念ながら息子がずっと憧れ続けてきた第一志望校には合格できませんでしたし、我が家の受験は少々複雑な事情を抱えていました。他の受験生やご家庭のお役に立つ内容ではないかもしれませんが、受験体験記の外伝として書き残すことにいたしました。よろしければご笑覧ください。

息子の中学受験は「より良い学びの場」を子どもに与えてあげたいというより、他に選択肢がないという切羽詰まった選択でした。小学校入学直後から学校生活に適応できず、1年生の夏以降は授業も給食も一切ボイコットするようになりました。何度も学校から連絡を受け、手を尽くしましたが一向に改善せず、息子は加速度的に調子を崩し、慢性的な頭痛、吐き気、発熱に悩まされました。

不穏になり学校の窓から飛び降りようとしたり、頭を壁に打ち付けたり、ランドセルを切り刻んだこともありました。「今日は頑張って授業に出る」と決意して家を出ますが学校につくと挫け、日がな一日、教室にも入らず廊下で段ボール工作。新年度に学校で配布されるノートは1ページどころか1文字も書かれることなく、教科書は開いた跡もない新品のまま年度を終えていました。“努力しても無駄”という無力感を親子共に強く抱かされました。

学校で集団授業、集団行動に全く参加できない息子でしたが、3歳から通っていたアノネ音楽教室のレッスン・集団授業や音楽合宿には問題なく参加できましたし、早稲田フィールドサイエンス教室という集団で出かけフィールドワークと振り返り授業を受ける教室は、楽しく順応できました。

もともと好奇心旺盛で“知ること”を楽しむ子どもだったので、公立の学校との相性が悪いのではないか、息子に合う私立中学に進学すれば、もしかしたら学校生活が送れるのではないかと一縷の望みを抱いて中学受験を決めました。完全に親の意向ではありましたが、本人も「自分に合うところに行きたい」という気持ちはあったようです。受験への抵抗はありませんでした。

このような状況でしたので、塾選びはスクール FC 一択でした。3年生のあの頃、もし学校の先生に「中学受験のために塾に行きます」とお伝えしていたら、この親は全く現状をわかっていない、と呆れ果てられたことでしょう。それくらいの惨状でしたので、大手塾に行けるとは全く思えませんでした。

アノネの先生方のお勧めもあり、花まるグループなら息子でも受け入れてもらえるだろうとFCとシグマTECHの体験授業に申し込みました。TECH は入塾テストがあったので半分諦めていました。ですが、慢性的な体調不良が続いていた息子の負担を思うと家から近い TECH に行けると有難い、と祈るような気持ちで結果を待っていたのを覚えています。振り返ってみると、入塾可否のお知らせメールを開くときは、合格発表の時と同じくらいの緊

張でした。

TECH に受け入れて頂き通塾が始まり、最初はとても疲れたようで「自由な時間がない」と行く時に愚図ることもありました。

4年生の夏頃からは学校での不適応が極まり、担任から「この学校にいる意味がありません、他を検討してみては」と公立小学校なのに遠回しに在籍を拒否される事態となり登校も難しくなりましたが、当時の自由が丘校担任の T 先生から「TECHにまで来ないと居場所がなくなるので、来られるならTECHは来てください」と言っていただき本当に救われました。

そして4年の秋も終わり頃だったでしょうか。息子がTECHから帰ってきて、算数教材ガウスを手に「今日はすっごく面白かった、勉強ってこんなに面白いんだって驚いた」と興奮して目を輝かせて話してくれたことがありました。聞いた時は本当に嬉しかったです。この言葉を聞けただけで中学受験を始めた意味があったと涙が出ましたし、息子に“授業”の面白さを教えてくださったTECHの先生方にどれだけ感謝したかわかりません。

ノートの取り方、字の書き方はひどいものでしたが、まがりなりにも鉛筆を持って板書をするようになりました。

算数の式が書けず、漢字はゲシュタルト崩壊を起こすという状況ではありましたが、理科社会のカルタなど集団学習も熱心に参加しているようで、自分からは難しくとも課題表にある課題は終わらせたいとの欲が生まれ、学習習慣はついていきました。

5年生に進級しテキストが予習シリーズに変わり、四谷大塚の試験や模試を受けるようになって、少しずつ受験モードに切り替わっていく時はやはり苦戦しました。学校での学習に全く参加していない息子は「楽しいかどうかは別として、やるべきものはやる」ということが全くできませんでした。

4年生の時はおそらく、純粋に面白いのでTECHの授業や課題に取り組めていただけだと思います。そんな中で課題がぐっと増える5年生を乗り切れたのは、ひとえにお友達の存在と、M 先生をはじめ先生方のお支えによるものです。

4年生の I 年間を通してTECHの仲間達と“友達”として関係を築け、TECH では自分も“普通”でいられるという安心感は息子には相当大きなものでした。何より先生方が息子をしっかり抱えて信じてくださったことが、息子が勉強を頑張る最大の原動力だったと思います。5年生の最初の頃の個人面談で、M 先生が息子のことを「賢いお子さんです」とおっしゃってくださったことがありました。その時に私は「にわかには信じられません」とお答えしたように記憶しています。紆余曲折ありつつも、ある程度の成績を出せていた息子ですが、私は信じられませんでした。

M先生はその後も、受験が終わる最後まで、徹頭徹尾「私は息子さんの能力を信じています」と言い続けてくださいました。後々、M 先生は「私は何もしていなくて」「ただ信じただけです」と仰いましたが、その“信じる”ということがどれだけ難しいことか。そして信じ続けてもらえることがどれだけ得難くありがたいことか。この受験を通して親の私が学んだ一番大きなことです。

息子が以前「M 先生はフェアなんだよ」と言ったことがあります。そして受験終了後の最近、食卓で受験とは全く別の会話において「本質をわかってくれる人は少ないんだ。上手く言えないけど、本当に僕の本質をわかってくれているのは M 先生だと思う」と言っていました。

授業中に何度もトイレに行ったり、シャーペンを分解したり、絵を描いたり、机の周りが地層になったり…。その他にも親の私共が知らないだけで授業態度に多々問題があったことと思います。問題あれどもそれはそれとして、息子の良い部分や力は率直に評価してくださる。息子は建前ではない無意識に近いその人の本心に、敏感すぎるほど敏感な子どもです。M 先生のご姿勢が、先生への、そしてTECHへの信頼を確固としたものとし、その後の困難な時期の学習を支えてくれました。

このようにしてTECHの先生方とお友達にがっちりと抱えて頂きながら、息子の受験勉強は進んでいきました。テストの成績は乱高下で安定しませんし、まったく点数が取れない時も多々ありました。その度に M 先生にご相談し、ご助言を頂くと、息子は「M 先生が言った通りにすれば大丈夫」と先生のご助言を忠実に実行し、基礎問題を繰り返し、次のテストでは点数を取るという流れができました。

決して順調ではありませんでしたが、修正して立て直し結果を出すサイクルがあったので、過酷な5年生でしたが本人も親も心理的には安定して学習を進められた

と思います。

6年生に上がって、日曜日も模試やシグマゼミなどやることは格段に増えていきましたが、それまでのペースを守りつつ本人なりに楽しみながら頑張っていたように思います。

特に6年生に入ってから算数個別指導は本当に楽しみにしていて、驚くことに毎回自分から準備をし、専用ノートも作り、先生のおっしゃったことを書き留めるようになりました。夏休み前の模試ではそれなりの結果も出て、安心したわけではありませんが、本人も親も手ごたえを感じていたと思います。

ただそこからの日々は苦しいものでした。天王山と言われる夏期講習が始まりましたが、通塾や勉強を嫌がることはないものの、明らかに学習ペースが落ちていきました。夏期講習の後半には M 先生からもご連絡をいただき、課題をやっていなかったことが判明し、そのことについて話し合いをしても改善が見られず、嘘をついたりごまかしたりする事が多々出てきました。

今思えば、長時間大量の課題をこなすのが息子には難しく、もはや息切れだったのだと思います。親の私は特に不安になっていました。その後の受験がというよりも、小学校入学以降の学校生活と重なってしまったのです。学校ではうまくいかなかったけれども、ほかの場所ではなんとかできた。それが私の拠り所となっていたこともあって、TECH でも結局は無理だった、学校と同じ結末になったらどうしよう、と不安に耐えられなくなりました。

このような結果になるぐらいであれば、受験自体をやめたほうがいいのではないか。ここまでの良い体験を残した方がいいのではないか。公立中学に行けるとは全く思いませんでしたが、不登校の子どもたちの教育支援センターに行けばいいと本気で考え始めました。冷静ではなかったと思います。

夏が終わる頃、やる気のない息子を見ることが我慢ならなくなり、算数個別授業の直前に私と息子で激しい言い合いになりました。もう受験をやめよう、結局学校と同じことだと息子を責め、このときは本当に受験をやめるつもりになりました。

息子は興奮して泣きじゃくったまま個別授業を受け、全く授業にならないまま、O 先生に「受験をやめなければいけなくなった。最後まで受験がしたかった、TECH のみんなと最後まで過ごしたかった」と話していました。O 先生は「例え受験をやめることになっても君が今までやってきたことはとても意味があることだ」と話してくださったようです。

夫も感情的になっていたので「受験を撤退します」と M 先生にご連絡したところ、直後に M 先生から面談のご提案をいただきました。先生からご連絡をいただいたことで少し冷静になり、息子には本気でやらないのであれば受験は終了しようと伝えたものの、面談で事情をお話ししたことで私たちもだいぶ落ち着きました。先生にご心配をおかけしたことを本当に反省しています。

9月以降は模試の結果が出ずとても苦しみました。過去問、学校別シグマゼミ、通常の課題、これらをこなすことは息子にはかなり難しいことだったのだと思います。ただ課題を処理するだけで時間が過ぎ、成績は下降していきました。なんとかしようともがけばもがくほど空回りし、そのうちに自信を無くし、成績がさらに下がるという悪循環に陥りました。

気がつけば冬前となり、学校別サピックスオープンも合格力判定も結果が出ないまま、受験直前期を迎えました。

模試で時間内に最後まで問題が終わらないという致命的な欠陥があり、改善するよう私共も息子に強要してしまっていました。それが本当に良くなかったということに気づいたのがこの頃でした。特に算数では個別指導の O 先生に「車の運転と同じで、早すぎても遅すぎても駄目で、自分にあるいいペースを見つけるのがよい」とご助言をいただいたことも踏まえ、周りに合わせてやっていくのは無理だと考え直し、速さではなく丁寧に問題を解いていくことに方向性を切り替え少しずつ復調しました。

結果から思うとあの 9 月以降の学習の進め方の失敗は大きかったように思います。第一志望校の合格判定も結果が出ませんでしたし、調子は明らかに下がっていました。そのため第一志望校はあきらめ、第二志望校への対策に切り替えることも考えました。M 先生にもご相談しましたが、息子の第一志望校への熱意を考えそのまま変えない方がよいというご意見をいただき、そのまま受験直前期を迎えました。

冬期講習、I 月の直前期とも、御三家を受ける他のお

子さんとは比べるべくもない演習量だったと思います。それでも息子としては、彼の11年という人生の中で最も努力した日々でした。それは息子が「何としても第一志望校に受かりたい」という、今までにない願望を持ったからでした。

親は愚かなもので、模試の結果など客観指標を見れば第一志望校の合格が厳しいことは明白でしたが、息子の頑張りを見ると努力が報われてほしいという思いが、願望ではなく現実化する未来のように感じられてくるのです。

不安と隣り合わせでしたが、1月いっぱいできる限りのことをやり切って2月1日を迎えました。朝が苦手な息子が自分でタイマーをかけ、1 週間前から早起きをするよう調整しました。1日のまだ暗い駅のホームで見た朝焼けが、とても美しかったことを覚えています。

第一志望校の校門前で先生方の Zoom 応援を受けて、先生方の言葉に呼応して士気を高める息子の姿は、私共が見たことのない、既に思春期を迎えた逞しい男の子の姿でした。受験勉強を通していつの間にか、息子は成長していました。色々なことが人よりも遅く、スムーズにできない中、失敗することを嫌がり学校でも家でもできるか不確かな事には手を出さない、挑戦する前に諦めることが多かった息子です。そんな息子が合格するかどうかも分からない第一志望校に、先生方の胸を借りてあきらめずに挑戦できました。親を振り返ることなく、先生方の応援を心に刻み真っすぐ試験会場に向かって行く息子の後ろ姿を見て、彼の成長を実感し誇らしくもあり、私共の手を離れていく一抹の寂しさも覚えました。

これまでも先生方の存在の大きさは充分実感してきたつもりでしたが、受験期間ほど先生方のお支えに救われたことはありません。第一志望校の結果が不合格と出たあと、もし先生方との信頼関係や先生方との関わりがなかったらと思うとぞっとします。とても息子を支えられませんでした。第2志望校の合格はいただいていましたが、息子は予定していた全ての受験スケジュールをこなして受験を終了しました。結果は5勝1敗。ほかの全てを落としても絶対に取りたかった勝負だけ落として、受験生活を終了しました。

第一志望校について、息子は前から「この学校だったら自分も学校に通えるかもしれない」と言っていました。なかなか成績が出ず合格力判定の結果も悪かった一時期、第二志望校ではもしかしたら通えないかもしれない、中学は行きたい、だからどうしても第一志望校に合格したいと泣いたこともありました。

今回の結果を受けて本人がどう思うかとても不安でしたが、進学先を決めるにあたり M 先生と息子で相談し、“TECH に一番近い学校”という言葉を決め手に進学先を選びました。息子は TECH に近いなら大丈夫と思えたのか、進学先での学びを楽しみにしている様子です。

今回の結果を受けて母親である私は、自分でも驚くほど動揺しました。そもそも学校選びの段階で、偏差値や大学進学率など一向に意に介さず、本人が通学し適応できそうな学校、息子に合いそうな学校という一点で学校選びをしてきました。そして納得のいく学校選びになっていたはずです。

それなのに受験を終了してから、もっと他の学校を選べばよかったのではないか、息子の第一志望校を受ける際の（偏差値的に）一般的な併願先も受ければよかったのではないか、そんな思いがとても強くなりました。そして強い無力感にも苛まされました。

あれだけ頑張って、あれだけ個別の対策をして、過去問にしても第一志望校にほとんどの時間を費やしました。正直なところ他の学校の過去問は、進学先の学校は4年分を1度解いているものの特別な対策は何もせず、学校によっては1年分のところもあります。それでも他の学校は全て合格し、あんなにも対策した第一志望校は落ちる。持っている能力ですでに結果は決まっていて、努力は無駄のような気がしてなりませんでした。

偏食も、お箸の使い方も、片付けも、水泳も、着替えも、そして学校の授業参加もそうだった。どれだけ手を尽くしてどれだけサポートしてもできないものはできない、持って生まれた彼の特性には勝てない。報われなかった過去のさまざまな場面が何度も何度も想起され、母親としての無能感と無力感を再び突きつけられた思いでした。

客観的にみたら、大げさすぎるのでしょう。おかしなことを考える親だ、とお感じと思いますが、私が自分で自覚してきた以上に、あの子を育ててきた中での私の無力感や傷つきは大きかったのかもしれません。

特に生活面で、何をやっても人よりできず、何をやっても人より遅く、普通のことが普通にできない息子。その息子の唯一の救いが学力であるような錯覚を、いつの間に

か抱いていたようです。愚かしいことですが、この感覚はなかなか拭えません。

息子は違います。これまで何かを失敗する度に、できない度に、どうせ自分はできないんだ、頑張ってもうまくいかないんだ、やっても無駄なんだと言ってきた息子ですが、この受験勉強に関してそのような泣き言は終わった後も一切言うことはありませんでした。

受験が終わって復帰した最初のピアノのレッスンで、先生に「受験勉強はとっても楽しかった。やれてよかった」と満足げに話したそうです。ずっと可愛がってもらってきたご近所の大学生のお姉さんから、合格祝いを兼ねてプレゼントと一緒に数学の問題集をいただきましたが「やった！ 」と、とてもとても喜んでいました。

進学先の入学前課題も、そして学校で何もやってない英語についても小学校の分は終わらせると言ってこつこつドリルを進めています。息子には“やっても無駄だ”という私のような無力感は全くないのでしょう。

中学受験は、母親としての私には“サポートをしたけれど達成できず”という過去の再体験ったわけですが、息子はまったく違う体験を得ていたのだと思います。結果はどうあれ自分がやり切れた、諦めずに挑戦できた、恐れず自分の欲しい結果に向かって頑張ることができた、という実感があるからこそ、彼は無力感を覚えずに前を向いて再び頑張ろうとしているのだと感じました。

息子の中学受験での勲章は、合格ではなく成長なのだということを息子から教えられました。このような学びを母親である私に与えてくれた息子に、心から感謝したいと思います。

そしてこのような息子を支え、信じて、導いてくださったTECHの先生方と仲間たちに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。TECH で育てて頂き息子は本当に幸せでした。

「幸せな受験」という言葉は、魔界といわれる中学受験世界で、往々にして道に迷う私共保護者にとって、くさびのような、お守りのような言葉だと感じます。受験を始めた当初に思っていた「幸せな受験」は、「楽しかった、嬉しかった、幸せだった」というだけの、もう少しシンプルなものを想像していました。

しかし実際に経験したものは、心の痛みや苦しさ、口惜しさ、情けなさも内包する、もっと複雑で深いものです。それでも、いえだからこそ、私共が体験した3年間は間違いなく「幸せ」でした。「幸せな受験」で得た大切な成長の芽を、これからも大切に育てていけるよう息子を支え信じていきたいと思います。

3年間本当にお世話になりました。感謝の言葉は尽きません。息子は TECH を卒業しますが、これからも陰ながらシグマ TECH のますますの発展と、先生方のご活躍を心よりお祈りしております。

O さん保護者さま(母)

「息子らしいいい受験」

進学先：世田谷学園

・シグマ TECH に入ったきっかけ

幼児期に数やパズルに興味を示したので、息子に合っているかもしれないと思い花まる学習会に入りました。なぞぺーやレインボータイムがとても好きでした。

本人が「算数が好きだから中学受験のテストが受けてみたい」と言い出したことで、3年生の Think!Think! からスクールFCに入りました。

本人も楽しみながらよく頑張っていたのですが、少しずつハードになっていくであろう、中学受験の勉強をやっていくことに迷いが常にありました。説明会でも中学受験は魔界だとおっしゃっていました。

特に我が家（父親）は「勉強を無理強いしない」ということが条件で、本人がやりたいなら中学受験を応援するということで話はまとまりました。

しかし私としては「勉強しなさい」のフレーズを極力言わないで受験勉強をやらせるのは非常に難しかったです(笑) 1週間、その日の計画を立てる際に一緒に話し合ったりして乗り切りました。

FCにも満足していましたが、TECH に通っている友人からの評判がよかったこともきっかけになりました。

・シグマ TECH のよかったところ

息子に「シグマ TECH 何がよかった？」と聞いたところ、「名前で呼んでくれるのが良かった」との答え。一見なんだか幼くて無邪気な返答ですが、実は核心をついているのではと納得してしまいました。1人1人をよく見てく

ださって、先生方、クラスの雰囲気が温かかったことに感謝しています。

5年の初め、課題が多くなりついていくのも必至で心が折れそうになりました。2か月たつ頃には笑顔も減ってしまい、撤退も悩みました。続けられたのは、先生方との距離の近さと温かさが大きかったと思っています。

好きな算数をたくさん褒めてくださり、やる気がわく工夫もしてくださいました。息子もクラスのみんなが仲間だという意識が徐々に強くなっていったような印象でした。

面談でもM先生は微笑ましいようなエピソードや、頑張っている教室での様子をたくさん話してくださいました。

悩みが次から次へと発生し出しメンタルにも来る6年生のときは、コミルでの相談ができることもありがたく感じました。悩みそうになったらすぐに相談させていただいていました。

息子は花まるらしい雰囲気が好きで、カルタ、サマチャレ、ホンキング、スーパー算数、元気なクラスの子との関わりなども楽しかったと思い出していました。受験勉強をしながら楽しい思い出作りもできたのは、花まるグループだからこそだと思いました。

・志望校を決めたきっかけ

4年生から文化祭めぐりを始めました。通いやすいところで将来のことや過ごしやすさを考え、理系に強みがある学校はないかと思い最初の年に行ったのが、駒場東邦と世田谷学園でした。

両校で物理部の部屋を訪問したところ、ピタゴラスイッチのような装置があり、一瞬で息子の目が輝きました。こんなことを突き詰められる学校があるのかと親子ともにわくわくしました。話をした生徒さんの雰囲気もよく、息子と似たような趣向の生徒さんもいて、居場所が作れるのではないかと思いました。

その後、最初から薄々知っていたものの、駒場東邦は非常に難しい学校だということに気付くのですが、図形問題や場合の数など、算数でチャレンジしてみたい問題があるということは、息子の勉強するモチベーションになっていきました。

偏差値が思うように上がらないときも、M先生は「憧れの学校があると頑張れます、算数の力には自信を持っていいし諦めない方がいい」とずっと応援してくださいました。

・志望校と過去問の取り組み

偏差値的に考えると駒場東邦は憧れ校と呼ぶべきか、第1志望校と呼んでいいのか、恐れ多いという感覚が続いていました。そして世田谷学園もとても行きたいと思っていたので、駒東を本当に2月1日の受験校に組むべきか悩んでいました。

駒東の過去問を9月に解いてみたところ、合格最低点−60点程でした。自信のあった算数でも10点程届きませんでした。どうしよう、何から手をつけようかと途方に暮れそうになっていたところ、先生からは「志望校は変えなくていいです。でもしばらく駒東には手を付けないでいいので、まずは世田谷を徹底的にやって合格最低点を目指し、そしてプラス数十点を目指しましょう。10月末までくらいにできればいいですね」と言われました。

しかし、結局目標を超えられたのは11月中頃でした。（約6年分）。世田谷の問題、算数は結構難しく、理科や国語も一筋縄ではいかないマニアックな問題や面白い問題に頭をひねりました。

この間、行ったものは以下の通りです。

【社会】

足を引っ張っていた社会を基礎からやろうと先生に言われ、「四科のまとめ」をこつこつ解きなおしました。暗記の小テストにも本気で取り組み100点を目指しました。

【理科】

物理分野には強く、生物が弱いことがわかっていたので、弱点を重点的に問題を解きました。

【国語】

漢字以外、いろいろ行き詰っていました。記述を特訓するシグマ単ゼミは最初、ほとんど書くことができず苦痛に感じていたようでしたが、どうにか取り組みました。記述に苦手意識を持っていたので青コメノートを書くことさえ大変で、人より時間がかかりましたが耐えて行っていました。

過去問を何年分も解く中で、記述をとにかく書いて埋める努力をしました。

11月頭からオンライン個別指導も追加で申し込みました。本文の内容を口で説明することを求めてくださったことで、文章をちゃんと読めているか、どこがわかっていないのか明らかになったと思われます。手厚く記述を見ていただけるのもありがたかったです。書くことに自信がなかったのが、励ましてくださって、意識が変わっていったように思います。

いくつもの取り組みが重なって、11月中ごろになると選択問題、記述問題ともに解けるようになっていきました。記述の内容も最後の方は我が子の書いたものかと疑うくらい上手く書けていて、思わず拍手してしまったこともあります。目も潤みました。

T先生には「ここまで急に伸びた例は少ないのでは!」と言っていただきました。

【算数】

気がつくと算数ばかりやってしまうので、バランスを考えながら取り組みました。過去問の×解きを理解できるまでこつこつやりました。個別でも過去問対策を手厚く、深掘りしてやっていただけたのは非常に心強かったです。

そうこうしている間に11月下旬になっていました。
最終関門のような駒東の過去問をまだ1回しか解いていないことで不安も感じましたが、2か月ぶりに解いてみると大幅に点数が伸びました。そのときはなんと50～60点程アップしたと思います。合格最低点まであと1点、“延長解き” をした分を含めると合格最低点を10点をゆうに上回りました。

しかしその後、全体的に伸びてきてはいるものの、点数がまた下がったりと安定しませんでした。中でも自信があると思っていた算数で苦戦することも多く、そこからは算数の頻出分野を強化して対策していきました。

唸りながらも、駒場東邦の算数の問題は面白いものが多く、息子は解いて楽しいとよく言っていました。なぞペーを難しくしたような問題もあったみたいです。

また国語は問題との相性も大きいと感じたのも事実です。合不合の模試の偏差値は最後の12月までそこまで奮いませんでした。しかし、文章、問題形式が合っていたこともあり、国語の過去問は毎回平均点を超えることができるようになっていました。

・オンライン個別指導

算数メインだったのでやる気はいつもありました。先生は解き方を自分の口で説明させたり、自信をつけてくださったりすることが感動するほど上手くて、私も見習いたいと何度思ったことか。

しかも雑談も面白い会話のキャッチボールをしていただき、個性も理解した上で伸ばしてくださっていることがわかる温かい雰囲気でした。

・楽しかったスーパー算数

参加できたこと自体が幸運でした。興味があるけれど、レベルが高すぎるのではないか、課題をこなすのに苦戦している状況でやって大丈夫か、などと悩んでいたとき「R くんには向いていると思うので是非やってみてください」と背中を押してくださった先生には非常に感謝しています。

T先生を始め、場合の数や図形など、先生方は算数が好きになる授業をしてくださっていました。勉強で忙しくなると受験を何故やり始めたのか忘れてしまいがちですが、恐らくああいった類の算数がやりたくて、この子は受験に興味を持ったのだと原点を思い出しました。

・2 月の受験期

悩んだ末、2月1日は当初の希望通り駒場東邦を受験しました。テスト後、息子はやりきったいい顔をしていました。「算数と国語は結構できた気がする。ただ理科が時間配分上手くいかなかった」と言っていました。

2日のお昼過ぎに駒場東邦の不合格を知ることになるのですが、結果を知っても「残念。でも結構自分の中ではできたと思ったんだけどな!」と笑顔で前を向くことができていました。

そして2日の世田谷学園のテストも「算数が結構よくできた気がする。国語は面白くて好きな問題だったけど、どうかな・・」などと話していました。

その夜、世田谷の合格、特に行きたかった理数コースの両方の合格の文字を見たときは飛び上がるほど家族で喜びました。

実質２日に終わったので早い方だと思いますが、合格をつかむまで親はメンタルもぎりぎりで、とても長い時間に感じました。子どもの方が逞しかったと思います。

はたから見ると第一志望合格ではないかもしれませんが、第一志望群とも言える行きたい学校に進学できることになったこと、十分やりきったと思えたことで、我が家はいい顔で受験を終わらせることができました。力がついて成長したことも親の私がしっかり断言できます。

・受験をしてよかったこと

好きな算数を小学校の範囲を超えて取り組むことができたこと、さまざまな問題に取り組む過程でいっぱい考え抜いたこと。知識が増え、そして知識を使って考えることができるようになったこと。最初は苦手だったのに、考えたことを徐々に言語化できるようになったこと。明らかに文章を書いたり話したりする際に語彙が増えたこと。読書も楽しめるようになったこと。

想像以上に成長が見られて、驚きました。

もちろんやる気の出ない日もあり、効率が悪いともどかしい気分でわが子を見ることも多々ありましたが、それでも葛藤しながら一生懸命取り組む姿勢を見て、わが子に対してこんなに頑張ることができるのかと尊敬できるようになりました。

最初の頃考えていた以上に中学受験は大変でした。けれど目標に向けてがんばった経験は意義のあるものだったと思っています。

支えてくださった先生方本当にありがとうございました。

Ｏさん

「辛くて楽しい中学受験」

進学先：世田谷学園中等部

ぼくは幼稚園のころから花まる学習会にいました。今でもなぞペーやレインボータイムが楽しかったことを覚えています。

3年生にスクール FC に移り、そして4年生の後半からシグマ TECH に移りました。4年生の頃はただ楽しかったけれど、5年生から課題が忙しくなってきました。けれどTECH の先生からは課題が終わらなくてもただ怒るだけということはなく、「優先順位を立ててやってきて」と言われました。慣れてきたら、課題が終わるようになってきました。

・家庭学習の工夫

先生に相談して言われた通り、自学ノートに優先順位を書いて順番に取り組みました。また、何曜日に取り組むのかということも計画を立てました。

集中できないときは好きな教科（算数）から先に取り組みました。その後に勢いが出てきたら、他の教科も頑張りました。どうしても気がのらないときは好きな音楽を聴いて気分転換しました。

・サマーチャレンジ（サマチャレ）

夏のサマチャレは、ホンキングが取れるように頑張りました。ホンキングとは授業で本気で頑張っていたり、テストで点数が１位だったりするともらえる賞（シールと名誉）のことです。結果、算数のまとめテストで１位を取れました。得意な算数で１位になれたことがとてもうれしかったです。

休み時間にはみんながペットボトルフリップで遊んでいたので、僕も入って一緒に遊びました。クラスのみんなは真面目すぎず馴染みやすい雰囲気でした。

・シグマ TECH のよかったところ

先生が寄り添ってくれて、安心していられるところと、自分の弱点などをしっかりわかってくれているところです。自分が演習をした方がいい分野の課題を出してくれるので、しっかりと自分のためになります。そしてMetaMoJi にメッセージを書いてくれるので励まされます。

また、やり忘れていたことに気づくこともあるので、MetaMoJi は便利だと思います。個別指導でも、先生の説明や解いている過程がリアルタイムで見られます。また、見逃したり忘れたり復習したりするときにも、形として残るためわかりやすかったです。

駒場東邦は残念だったけれど、世田谷学園も行きたかったので悔いはないです。幸せな受験をすることができました。

僕が入試当日にも最後まで諦めずにやり遂げ、無事

に合格を取れたのはシグマ TECH の先生、そして支えてくれえた人達が応援して励ましてくれたおかげです。ありがとうございました！

Ｐさん保護者さま
「幸せな受験をありがとうございました」

進学先：高輪中等部

年長の花まるから始まり、アルゴクラブ、Think！Think！ とどっぷり花まるに浸かって成長してきた息子が中学受験とするとなった時、選択肢は花まるしかありませんでした。4年生時はスクール FC で1年間お世話になり、5年生からは家でタご飯が食べられるシグマ TECH に移りました。

授業では楽しく、そして時には指導で厳しく、先生方はいつも息子に寄り添ってくださいました。シグマ TECH で駆け抜けた2年間は、保護者である私にとっても大切な宝物です。

▪ 苦労したこと

5年生のカリキュラムが始まってしばらくした頃、難易度の高さと課題量の多さからか、息子は体調不良になりました。頭痛や腹痛、めまいなど自律神経が原因と思われるものです。一時は受験撤退も頭をよぎりましたが、その後課題量にも少しずつ慣れて体調面は何とか乗り越えられました。

▪ ストレス発散について

息子は学校や塾でのお友達と過ごす時間でストレスを発散できていたようです。

私も同学年のお友達の保護者同士の繋がりがかなり助けになりました。お互い具体的な志望校や偏差値などの話はせず、今不安に思っていることや子どもとの関わり方などを相談し合うことで、1人で抱え込まずに済んだように思えます。

▪ 1月受験について

わが家は学校選びの優先事項に通学時間があったため、通学時間の長くなる1月の埼玉校の受験は練習のみのつもりでした。しかし2月の本番が近づいてくると、もし東京の学校で合格がもらえなかったら埼玉の学校に通う可能性もあるのではと考えが変わりました。受験は何が起きるかわからない上、気持ちの変化も日々ジェットコースターのようです。通うことも想定した前受校の合格が大きなお守りになりました。

▪ 受験を終えて

2月1日の朝、心も体も健やかに無事にこの日を迎えられたことに胸が一杯でした。

受験会場に向かう駅のホームで半べそをかきながら、息子に初めて「よく頑張ったねえ。」と伝えると「やめてよ。これからが本番だよ。」と言われました。

この日まで1度も受験をやめたいと言わなかったこと、頑張っても頑張っても届かない熱望校への挑戦を諦めなかったこと、そしてその学校からの不合格という現実を突きつけられても取り乱すこともなく、彼なりに一生懸命消化しようとしていること、全てが驚きです。我が子を尊敬する機会を与えてくれた中学受験は、私にとってもかけがえのない経験でした。

Ｐさん
「本気は楽しい」

進学先：高輪中等部

6年生の春、僕は受験が近づいていることを実感した。そして、最初のテストでは良い点数を取り、良いスタートを切ることが出来た。

しかし、その後は段々と成績が下がり、夏期講習前は第一志望の芝に全然届いていなかった。けれど、夏期講習では毎日の勉強が楽しくなり、特にサマチャレでは毎日勉強を頑張った。とても楽しかったので、あまり疲れなかった。

そして、あっという間に夏休みが過ぎた。秋、頑張って勉強したつもりだったが結果が出ず、夏休みの疲れが出てきた。僕はこの9月～11月ぐらいの時期が一番大変だった。

そして、冬期講習が始まった。冬期講習はハードだったけれど、毎日が自分の実力試しになり楽しかった。そしてついに2月の受験が始まった。しかし、1日の受験はとても手応えが悪く、結果を見たらやはり落ちていた。芝を受

けるチャンスはまだあったので、悔しかったがそこで挽回しようと思った。

そして、2月2日の高輪に受かり、4日の芝を受けるチャンスが来た。手応えがあった。1日に比べたら絶対に4日のほうが取れたと今でも思う。しかし、結果を見たら不合格だった。とても悔しかったが、自分の全てを出し切れたし、テストがとても楽しかったので、僕は悔いが残らなかった。そこで僕は受験をして良かったなと改めて思った。

Qさん保護者さま
「娘が娘らしくの志望校選び」

進学先：三田国際中等部

娘は小学2年生から花まるに通い始め、4年生からはシグマ TECH 自由が丘にお世話になりました。

◆6 年生の夏 娘の異変

課題の大変さはありましたが、先生方や仲間に恵まれて、本当に楽しく通塾しておりました。学力においても、比較的順調だったと思います。

しかし6年生の夏休みに入ったころから、娘に異変が…。課題をなかったことにする、難しい問題はすぐに諦める、5年生で解けていた問題が解けなくなる、授業中の私語が目立つ…。

そんな娘の不調に、M 先生もいち早く気づいてくださり、改善策を一緒に考えていただきました。ただ本人の気持ち次第ではあるため、すぐに改善するというものではありませんでした。そのまま様子を見ているうちに、過去問に取りかかり始める秋には行きたいと思っていた学校が全く手の届かない学校になり、安全校と思っていた学校が実力相応校になっていました。

◆6 年生の冬 今更の志望校選び

娘の学習態度に改善が見られなかったため、①受験をやめる、②志望校を変える、のいずれかしかないと話し合い、本人は②を選択しました。まさか6年生の冬になって、新しい学校の説明会情報を必死に収集するとは思っていませんでした。

またこの時期は、本来は受験予定校の入試説明会に参加する時期でもあったので、10月～12月にかけて毎週末、母はどこかの学校に出かけては悩むという日々を送っていました。この期に及んで志望校が見えずに、親としては大変な時期でしたが、この時も M 先生は寄り添ってくれ、娘に合う学校選びを親身に考えてくれました。

今思うと反省でしかないのですが、もともとの志望校決めは、本人の意思を尊重しつつも、ついつい親が先回りしていたかもしれません。朝起きられないので家から近い学校であることや、再び受験に取り組むことができるのか心配で大学附属校を選んだり、過去問との相性も重要な判断材料にしていました。

しかし結局本人のやる気がついて来なかったので、今更なタイミングで、娘が「楽しそう！今すぐにでも通いたい！」と思う学校を真剣に話し合いました。そして娘が最終的に選んだのは三田国際学園でした。文化祭で見たダンス部のパフォーマンスに圧倒されたこと、オーストラリアの高校卒業資格に挑戦できること、憧れの TECH の先輩が実際楽しそうに通学していることなどが理由でした。

◆志望校対策

しかし三田国際の入試問題は思考力が問われる記述問題が多々あり、娘との相性は全くよくありませんでした。案の定、過去問では6回中4回は合格最低点を20点～30点と大幅に下回っていました。

それでも娘は三田国際にチャレンジすると言い張るので、そのためには弱点を洗い出し、大嫌いな×解き、××解きをするしかないことを説得しました。

TECH では国語の記述対策や、社会では複数の資料を読み解き、自分の考えを表現する対策などをしていただきました。

（TECH の過去問対策には本当に感謝しています。我が家は志望校が二転三転する迷走状態でしたが、毎回全教科で的確なコメントを書き残してくれました。このコメント&採点基準は、後にやり直した過去問を親が採点する際にとても参考になりました。）

◆6 年生のクリスマス

クリスマス頃から、ようやく真剣に取り組み始め、そこからは別人になりました。自学室の主となり、朝10時から夜 20 時まで1日も欠かす事なく、直前1/31まで通い

続けました。「もっと早くからその姿勢を見せてよ！」と内心思いましたが、それがまだ小学生（しかも娘は早生まれ）の受験であるのだろうな、と思います。

苦手な記述問題も初回は諦めて空欄で出していたところも、2回目以降には、こつを覚えて数点の加点はもらえるレベルにまで成長したと思います。最後の1か月でできることは全てやったと本人は思えたようで、落ち着いて入試本番を迎えることができたようです。

◆入試当日

2/1の午前入試、三田国際が終わって元気に会場から出てきました。「結構できたと思う！」と嬉しそうに話す娘に、「良かったね」と返しつつも内心は焦っていました。娘はこれまでの模試でも誇らし気に「できた！」と言って結果が伴わないことが多々あったためです。

2/1の午後入試、かえつ有明は「疲れすぎて記憶にない。失敗した、多分受かっていないと思う。」と言っていました。試しに色々と聞いてみてもしばらく沈黙したあと「…どうしよう、覚えていない」と答えるほどでした。

ここまで疲労した娘をこれまで見たことがなく、1日に2校受験することが、子どもにとっては相当の負担になるということを痛感しました。帰路の電車の中では、疲れて眠り込む娘の横で、翌日の受験スケジュールをシミュレーションしていました。

◆入試結果

2/1午後10:00。2校ともこの時間の合格発表でしたが、娘には結果は明朝伝えると説得し、明日の試験に備えて先に寝せました。夫は待ち疲れて先に寝落ちしてしまいました。

「厳しい現実を直視し、本人に明るく前向きに伝えるのが私の役目だ」と気持ちを引き締めてページを開くと…まさかの桜ピンクの画面が!! しかも両校とも!! まず娘をすぐに起こし、そのあと夫を起こし、そのあとTECHに電話をし…とその後は慌しく過ぎました。

◆振り返って

娘のやる気スイッチに一喜一憂した受験生活でした。やる気を余計に削ぐNGワードもたくさん言ってしまいましたが、TECHは一貫して親身で前向きなアドバイスをくれました。

特に M 先生は娘の塾の先生というよりは、我が家のカウンセラーだったと言えるほど、細々としたことまで相談にのってくださいました。おかげで大幅に道をそれることなく、都度軌道修正することができました。

3年間ずっとありがたかったことは、娘が毎回楽しそうに通塾していたことです。課題から逃げても、先生に厳しく注意されても、塾に行くことは楽しくて仕方なかった様です。先生方との授業中の他愛ないやり取りや、友達との帰り道がひたすら楽しそうでした。

また時々、卒業した先輩が塾に立ち寄り、後輩を励ましてくれて、進学先の話を楽しそうにしてくれるのも塾として素敵な在り方だと思いました。

どのご家庭もそうだと思いますが、我が家の中学受験もいろいろとありました…。けれどこの大変な中学受験をやり切った事や、素晴らしい恩師、友達たちに出会えた事が娘を逞しく、そして幸せにしてくれました。この先何かあっても大丈夫だろうと思える強さをもらいました。

最後に、入試の数週間前に娘が私に言ってくれた、私の3年間の苦労が報われた言葉で、この体験談を締めさせていただきます。

「もし全落ちしていたとしても、私にとっては幸せな中学受験だったよ！シグマの友達や先生たちと過ごした時間は、シグマに通っていないと経験できなかった。受験したことは絶対に後悔しないよ。シグマに通わせてくれてありがとう！ 」

Rさん保護者さま

「親子で乗り越えた試練」

進学先：三田国際科学学園中等部

・受験のきっかけ

娘は花まる学習会からお世話になっておりました。勉強をする習慣を身につけることができればという思いから通い始めました。

娘が通う小学校は中学受験する子が多く、またシグマTECH に入塾した時点で親も子も「あ、これは中学受験のレールに乗るんだな」という空気になりました。

習い事もしていたため、受験と両立できるかということ

を娘に確認し「両立する!」と宣言したので親としても腹を括りました。この宣言が安易なことではないことだと、後に娘は気づくのですが…。

・受験勉強

5年生から課題も多くなり「課題が終わらない…」と泣く日が何度もありました。もともと算数に不安があったためちゃんと勉強についていけるのか心配でしたが、5年生のうちはそれなりに模試の結果も出ていました。

しかし6年生になり課題がさらに増え、課題をこなすことに気持ちが傾いてしまい、内容を理解していないことは傍目から見ても明らかでした。

6年生の夏期講習が終わった最初の模試で、大幅に成績が落ちました。算数の基礎が定着していなかったことがここで明らかになりました。

本来ならば夏の成果が出るところなのでしょうが、「これでは行く学校がない」と初めて感じたようでした。S→T クラスへのクラス変更も娘から先生に伝えて、基礎の徹底に専念することになりました。それでもエンジン全開で取り組むという様子でもなく、試験直前まで何度も娘と衝突していました。

・1 月受験

1月校は2校受験しました。2月に連日で受験をする練習として、2日連続での受験でした。初日は通学時間1時間ほどの学校、2日目は地方校の東京入試でした。

初日の受験は何もかも初めてでかなり疲れていたようで、帰りの電車の中で熟睡していました。2校とも合格をいただきましたが、娘としては通学するには現実的ではないと感じたようで、ようやく本腰を入れて勉強するようになったように見えました。

・2月いよいよ本番

2/1は午前も午後も三田国際を受験しました。何としてもこの学校に決めたいという思いから連続で受験しました。過去問を解いても一度も合格最低点に届かなかった学校でしたが、解いていて問題が面白いといつも言っていました。

試験当日も試験が終わって戻ってくるなり、解いていて面白かった!と笑顔で報告してくれました。そうは言っても、合格が取れるかどうかはまた別の問題だよな…と私は不安でいっぱいでした。

午前の合否は 22 時発表で娘は疲れて発表前に寝てしまいました。ドキドキしながら合否サイトを確認すると、「おめでとうございます。」の文字が! 嬉しいというより、びっくりしたというのが正直なところです。

出張中の夫と、実家の両親、そして TECH の先生にすぐに報告、疲れて早く寝たかったのですが2日の午後の出願手続きに入りました。

2/2午後は三田国際の3回目を予定していましたが、2/4に4教科受験予定だった学校の2教科受験に変更です。

2/2朝、娘は目覚ましですぐに起き、自分でサイトを確認していました。えっ!という声の後、飛び跳ねて喜んでいました。

午前の大妻は機嫌よく受験しました。こちらも手応えがあったようで笑顔で戻ってきました。午後に受験した学校は得意とする社会がない2教科だったため、自信はなかったようでした。この日は大妻のみ合格でした。

2/3は三田国際か大妻が合格したら受験する予定のチャレンジ校でした。なかなかハードルの高い学校でしたが、すでに合格を手にしていたのでリラックスして受けられたようでした。

付き添いに行った夫も合否が出る前から、三田国際もいいけどここの学校もいいなぁ、と受かった前提で話をしていました。結果は不合格でしたが、娘は楽しかった!と言っていました。

2/4は2/2午後に受験した学校の4教科がありましたが、娘の心はすでに三田国際にあったので、出願せずに休息日としました。

・受験を終えて

振り返ると6年生になってからの一年は本当に大変でした。娘は苦手なことを後回しにする性格のため、課題も算数は最後に手を付ける状態でした。

5年生のうちに私も気付いて修正すれば、6年生でこんなに苦労しなかったのではないかと思います。

娘も反抗期に入り、衝突ばかりで親子関係はギスギスしていました。先生方は、親御さんは怒らないようにとおっしゃっていましたが、我が家ではそれができませんでした。

今だから言えることですが、受験に失敗し親子関係も修復できないまま過ごすようになるのか、と考えたこともありました。先生に何度も相談し、親が言っても聞かないことは先生から伝えていただいたりもしました。

中学受験は長い人生の通過点に過ぎませんが、大変貴重な経験になりました。そして何より娘が一番頑張ってくれました。

自分の行きたい学校でこれから6年間学べるということはとても幸せなことです。これからの人生、悩み苦しむことがあると思いますが、まずここを乗り切ることができたということに自信をもって歩んでいってもらえることを願っています。

最後になりますが、花まる学習会からシグマ TECH までたくさんの先生方に出会えて、お世話になりましたことを心から感謝いたします。

ありがとうございました。

R さん
「私の二月一日」

進学先：三田国際学園中等部

２月１日、私はとても緊張していた。私が３年間積み重ねてきたものの全てが出てしまう日なのだから。起きた時から心臓がバクバクで今にも飛び出そうなくらいの緊張。11 年生きてきて初めての体験だった。

朝はいつもより早く起き（ることを心がけたが２度寝してしまった）、ごはんはいつもよりも多く食べて出かけた。行きの電車の中では、始めはキョロキョロしていた。壮行会のときに M 先生が「緊張したら、緊張している人を探して」とおっしゃっていたから。しかし、周囲の人はみな落ち着いていて余計不安になってしまった。その後は車内で流れ続ける広告を見ていた。

ずっと電車にゆられていたら、あっという間に学校の最寄り駅。学校近くの神社に寄ってから学校前で Zoom の入試応援を受けた。

Zoom に入ると、まさかの、小学校 1・2 年の時に花まるで教わっていた先生が！？私が年長のときに花まるで教えてくださっていた先生もおられて、おどろきと、嬉しさと、「絶対合格しなければ」という強いやる気に満ち溢れた。

いろいろな先生から応援の言葉をいただき、最後にM先生から「諦めないで」と声をかけていただいて教室へと向かった。1 日に受けたこの学校は、これまで何度過去問解いても合格点に届いたことがなかったので、とても不安を抱えていた。

会場でアンケートに答えたりしているうちに試験開始時刻が迫っていた。私は「勝ちグミ」を口に放り込んで、緊張をほぐした。

国語→算数→理科→社会の順だったが、国語のできが悪かった。算数は面白い問題があって自信があった。理科と社会はいつもよりもでき、これも自信があった。午後もできはあまり変わらなかった。

翌朝パソコンで合格発表を見ると赤字で「合格おめでとうございます」という表示が出ており、朝からピョンピョンとびはねてしまった。

この学校に合格できたのは友達の存在も大きいと思う。1 月 31 日まで友達と勉強できたから、「あの子もがんばっているから私もがんばろう」と思えた。それに、同じ学校を志望している友達も 2、3 人いたから、「あの子に負けないぞ」と思えた。

TECHの先生、家族、友達、本当にありがとうございました。

S さん保護者さま
「受験勉強をしながら学ぶことが楽しいと思って、ゆっくりタご飯をお家で食べて志望校に合格する 」

進学先：成城中等部

シグマ TECH に通い始めたきっかけ

・競争させたいわけではなかった

「合格する」ために通塾するとは思いますが、「受験勉強をしながら学ぶことが楽しいと思って欲しい」ということが、中学受験を始めるにあたってずっと考えていたこと

でした。

通塾するなら近い方がいいのでは、と近所の大手塾に見学は行ったものの、点数や偏差値でクラスが頻繁に変動するということが腑に落ちませんでした。探している中で、以前から知っていた花まる学習会・スクール FC の系列のシグマ TECH に辿り着きました。

・「3年間、週2日の通塾、ゆっくりタご飯をお家で食べて志望校に合格する」というコンセプトが魅力的

貴重な小学生時代の時間を3年間も勉強漬けにしたくなかったこと、「学ぶことは楽しい」を伝えられそうな塾であること、対面とオンラインを駆使して受験に挑めることなど、大手塾にはない魅力が満載でした。

・第一関門の入塾テスト

入塾テストの手応えが、本人に全くなかったので、入塾できたことに本人が一番驚いていました。腑に落ちない中大手塾に行くのか……と半ば諦めていたところ入塾できて本当にうれしかったです。

シグマ TECH で心に残っているできごと

・「学ぶこと」を好きになれる授業と環境

小学校の授業より広く深いことが楽しかった様子でした。騒ぐことも多かったと思うのですが、そのままの息子を受け入れてくださりありがたかったです。また、1人1人に対するアプローチの種類が多く、6年生ではより個別に対応してくださり安心して受験期を過ごしました。（自学ノートチェックや MetaMoji のコメント、オンライン個別授業など）

・4年生から5年生に進級できた時に見せた涙に堪えた

ずっとシグマ TECH にお世話になりたかったのですが、思うように結果が出ず、5年生に進級できるかどうか不安で、進級テスト前に私たちはプレッシャーを与えていたのかもしれません。進級の連絡を伝えた時、普段泣かない息子が号泣してもらい泣きしました。中学受験の険しい道のりを思い知った初めての出来事だったように思います。

・いったん受験勉強を休むことも選択肢に

6年生の 11 月にどうにも身が入らず、家庭内の空気も悪い、模試の結果も芳しくない、志望校も変更しなければいけないかもしれないというところで先生に相談しました。三者面談を設けてくださり「1週間勉強しないで好きなことしてみたら」と言ってくださいました。親が言うと子どもは見放されたと思ってしまうかもしれないと考えていたので、休ませる勇気をいただいた瞬間でした。

この出来事から変化があったかといえば、残念ながらそこまででもありませんでした。ただ、そこで一旦立ち止まったからこそ、気持ちを新たに最後まで全力で走れたのかなと思います。

・本の貸し出し

息子は国語が好きで、問題を読むたびに「今日の問題はおもしろい話だった」と話していました。そんな中、国語のテキストに載っていた話の続きを読めるように、というコンセプトで本の貸し出しが始まりました。実際に今年受験に出た本もあります。なかなかゆっくり本屋に行く時間も取れなくなり、学校の図書室にはない本などもあると思うので、塾で手に取れるのはいいなと思います。

親として

・情報は一次情報を選択（釣りタイトルに振り回されない）

ネットニュースにはつい読んでしまいそうになる釣りタイトルが本当に多く、情報に振り回されそうになりましたが気をつけました。M 先生の Voicy にある校長先生との対談などは、学校の思想のようなものも感じられてとても参考になりました。

・3月生まれでも合格できる

息子は3月末生まれで、「早生まれは中学受験に不利」という記事を目にした時、ネットニュースには振り回されないぞと思っていたのにどこかで気にしていました。そもそも心身ともに1年近く差がつく子がいるのは事実です。ある日「4月生まれの人たちと肩を並べられている」と話してきたことがあり、おそらく本人も体感したことがあったのでしょう。

自分で掲げた目標にがむしゃらに向かえないのはきっと精神的に未熟なのだ＝早生まれだからと、私の頭の片隅に以前目にした記事が浮上していました。ですがおそらく違います。「早生まれだから」という理由をつけて納得させようとしていただけのような気がします。

それは彼らの可能性を狭める考え方で、私たち大人が型にはめてはいけないと思い直しました。たとえそうだとしても、諦めずに応援・サポートに徹しなければと、不安になるたびに考えていたように思います。

・学校見学の時に感じる直感を大事に（特に違和感）

「子どもが通う姿を想像できるか」ということはよく言われますが、たくさん学校を見て次第に優先順位などが分からなくなっていました。

けれど、言語化できないなにかしらを感じることがありました。それがただ「あ、いいな」というものでも、その直感を信じて学校選びをしてよかったと思います。譲れない条件と直感で5校くらいには絞れました。（そこから先は過去問との相性があり、結果的に3校まで絞りました）

・本当に 6 年生になればできるようになることが増えようやく「受験生」になる

ノートの罫線からはみ出して文字を書く、字が汚い、丸つけしない、親が言わないとやらない等々最初は気になっていたことが“本当に”6 年生になってようやくできるようになりました。まさに自学ができるようになってきたのです。体験記を読んでいても「本当かな？ 優秀な子だからでは？ 」と思っていましたが、子どもは少しずつでも成長していました。受験期真っ只中にはそう思えなかったでしょうが、もう少し早い段階で「コツコツできないことばかりに注目しない」と思えていたらよかったなとも思います。

・子どもは変わるけど変わらない

心身ともに成長するので、塾に通い始めた時とはだいぶ変わりました。けれど最後までゲームもテレビも外遊びも止めませんでした。メリハリをつけてやっていこう、という気持ちは芽生えるので、本人としては日々の勉強を始めるルーティンのひとつのようでした。

直前期も変わらないままでしたので、本当にそれでいいのか？ とは思いましたが、気持ちよく勉強に臨める環境づくりのひとつとして「遊ぶこと」は止めなくてもいいと考えました。親と必要以上に揉めることも良くなかったでしょうし、それも息抜きの１つ、ということで目を瞑っていました。

・ゴールは受験本番（2月）

とにかく家庭内で言い続けた合言葉です。芳しくないことは多々起きますが、ゴールは2月なのです。そう思えば親子共々心が楽になったような気がします。

・なにかあったらすぐに Comiru で先生に相談

6年生になり、思春期に片足入った状態になりました。勉強に身が入らないこともありますし、オンライン授業中に YouTube を観るなど、親としては怒り心頭な出来事が増えました。

家庭内の問題を相談するのも躊躇するなと思うこともありましたが、なにかあるたびに Comiru で相談しました（書くと感情が一旦冷静になるのでよかったです）。先生はすぐに返信してくださいましたし、寄り添ってくださり本当にありがたかったです。先生方は信頼できる受験のプロなので！ Comiru ですぐに相談できるということで精神衛生を保つことができました。

受験本番

・自学室と zoom 応援なしではのりきれない

2/1の朝は第一志望校の受験で、緊張と不安で家族全員ガチガチでした。Zoom 応援で M 先生に繋ぎ、お顔を拝見しただけで息子も私も緊張がほぐれました。同じ学校を受験する友達にも偶然会い、2人ともやや緊張はしつつもどこかで平常心を取り戻したように感じました。

2/2の朝は妙にリラックスモードでした。第一志望を終えた後だったからかもしれません。この日は雨が降って寒い朝でした。雨の中、靴紐がほどけたまま学校に入ろうとしたので、身なりを正しなさいという話で少し喧嘩をしました。リラックスしていたように見えていましたが、それでも不安や緊張もあったのでしょう。そういう苛立ちを汲み取れなかった自分に激しく後悔しました。

2/1の結果が午前・午後とも不合格だと分かった2/2の午後、自学室に滞在できる時間は数時間しかありませんでしたが「自学室に行きたい」と言うので送って行きました。そこで先生や友達と過ごしたことにより、気力を取り戻したように思います。

帰って朝の結果を確認したところ、合格をいただいていました。朝の出来事があったので、ほっと胸を撫で下ろしました。

2日の合格をお守りに、2/3の第二志望は程よい緊張

とリラックス具合で臨むことができました。午後は自学室へ。受験期間中に自学室があり、先生と仲間がいるということが心身ともにリズムを作ることができてありがたかったです。

その日の夜、第二志望で合格をいただきました。家族全員大喜びで、すぐに先生にお電話させていただきました。翌日、第一志望校の再チャレンジだったのですが「もうなにも怖くはない！ 」という気迫で臨める状態でした。

2/4の朝、同じくリベンジを果たそうという仲間と共にZoom 応援に入りました。試験が終わった後「今日も自学室行こうかな」と話していたことも印象的です。それほどまでに自学室はより所で、最後まで全力で臨めたのは紛れもなく先生と仲間のおかげだと思いました。結果は残念ながら不合格で、この日で彼の受験は終了しました。

総括

受験本番になると、子どもは気力体力共にタフであることを実感します。親の方が感情は揺さぶられ、体力は削られ、満身創痍でした。

自由が丘校は和気藹々としていて3年間とても雰囲気のいい中で勉強に向かえました。良いのか悪いのか6年生になっても「本当に受験生なのか？」と思わせるほどでもあり、先生方は本当に苦労されたと思います。息子も授業や自学に身が入らないことが長く続き、手を焼かれていたはずです。ただ、過酷な中学受験であんなに穏やかに仲間のことを思い、応援し、自らも試験に挑む姿を見られたということは何よりも素晴らしかったと感じています。

それはシグマ TECH だからこそ味わえたことですし、私たち家族にとっては非常に良い環境でした。これからも彼らの持っている謎の力を信じて乗り切れることがたくさんあるだろうな、と思えるようになりました。

「受験勉強をしながら学ぶことが楽しいと思って、ゆっくり夕ご飯をお家で食べて志望校に合格する」が実現できました。本当にありがとうございました。

Sさん

「100点より100%」

進学先：成城中等部

最初からネガティブな内容は良くないと思うが、正直にいうと第一志望の学校に行くことはできなかった。けれど自分がシグマ TECH で積み重ねた努力や、その経験は無駄にならないという言葉は信じている。

僕が第一志望校を受けに行った日、そこには同じ学校を目指す友達がいた。TECHの校舎で激励会をした時はそこまでの緊張はなく、受験当日の学校に着くまで受験という実感がわかなかった。けれどその場で友達に会い、お互いがこれまでどれだけ努力してきたかが鮮明に見えてきた。

僕は一時期成績が上がらず、右肩下がりだった。その時、M 先生と面談をした。そこで M 先生は、僕に「1週間好きに生活してみて」と言った。言われたとおり、時間を制限していたゲームをしたり、友達と野球をしたりした。それは志望校が決定する模試の1週間前だった。

結果、偏差値が急激に上がった。「俺なにかしたのかな」と不安にも思った。とにかく、その成功した経験や、友達が僕のことを支えてくれたおかげで、自信が湧いてきた。

けれどやはり一番大切なことは、緊張をなくして試験に挑むのではなく、自分がこれまでやってきたことに自信を持つ事だと思う。特に、僕は国語と社会が得意だったので、得意教科に関しては自信を持って取り組み、苦手な教科はできなくてもしょうがない、苦手なのだから、と割り切ることでより自信を持てたと思う。

また、僕は喋ることが好きなので、つい自学室で喋ってはその度に怒られていた（気がする）。自学室に行った時、先生たちはどんな会話でも乗ってくれる。雑談だったり、学校であった事であったり、ちょっとした話すらできる。それがとてもよかったと思う。

本当に先生たち、そして何より僕のことを支えてくれた親にありがとう。

最後に、僕が響いた言葉をみんなに伝えようと思う。1日が不合格で、4日目の受験を受ける前日、自学室に行った時に言っていた言葉だ。

「100点より100%」

大丈夫。僕はその言葉のとおり、全力を出し切れた。その時点で僕は花まるだね!!

Tさん保護者さま
「間に合った中学受験」

進学先:桐朋中学

第1志望に合格して2日が経ちますが、未だに信じられません。今までご指導・ご支援いただいたすべての皆様には感謝の言葉しかありません。

この場を借りて御礼申し上げます。

息子は2年生から Think!Think! に通い始めました。教室が家から非常に近かったことと、考える力を養えるのではないかと思ったからです。その後、4年生からシグマ算数、5年生からはシグマ TECH へと進みました。シグマか TECH か非常に悩みましたが、だめ元で受けてみた TECH のテストに運よく合格できたので、これもご縁と思い、TECH に決めました。

しかし、周りに優秀な子が多く、自分はだめだと落ち込んだ時期もありました。それならシグマや受験コースに変えたら? と提案したのですが、彼のプライドなのかそこは頑なに拒否し、結局 TECH に残ることに決めました。

その後、良き仲間・先生に恵まれて次第に楽しく通えるようになり、自称自然薯ハート(折れやすい心)な息子も何とか授業についていけるようになりました。

息子は低学年からやっていたサッカーへの情熱が冷めてしまい、通っていたサッカースクールも途中でやめてしまいました。バスケに興味を持ち始めたのは受験勉強が本格化する5年生で、バスケクラブに入るには遅すぎました。バスケに打ち込めなかった分、「中高一貫校に行って思う存分バスケをしたい」という思いが強くなり、中学受験を本気で目指すことにしました。いろいろな学校を見ていく中で勉学もしっかりやりつつバスケも強い桐朋を第1志望に決めました。

模試の桐朋の合否判定は A 判定の時もありましたが、不安定でもう少しレベルを下げた学校にした方がいいように思いました。

桐朋は2回受験のチャンスがありますが、2/2の2回目は御三家を受験した人が滑り止めとして受験するので非常に激戦となります。

実際、学校のホームページにも「両日とも臨んでくれた122名の受験生のうち、第1回で不合格ながらも第2回において合格した、いわゆる「復活合格」の受験生が、今年度は5名いました」と書かれており、たった5名しか受からない厳しい現実を目の当たりにし、母はすっかり弱気になってしまいました。

2/1がだめなら2/2は別の学校を受けるのがセオリーですが、本人は2回目も挑戦すると言いました。桐朋への強い思いが感じられ、絶対に合格しようと決意を新たにしました。「自然薯ハート」から「鋼のハート」に変わった瞬間でした。

第1志望も決まり、受験モードも色濃くなった9月頃、大きな問題が立ちはだかりました。字が雑で読めないという致命的な問題が浮上したのです。それまでは男の子でもあるし、多少の字の汚さは目をつぶってきましたが、模試で正しく解答しているのに不正解となることが続きました。こういう字は×になりますという典型的な字だったのです。

このままでは採点すらしてもらえないかもしれないと思うと夜も寝られない不安な日々が続きました。「汚くてもいいから丁寧に書くように」と口酸っぱく言い続けましたが、字の雑さは一向に直りませんでした。また、記述が本当に苦手で、主語述語がねじれて支離滅裂な文章しか書けず、シグマゼミの国語記述講座では0点、もしくはひと桁ということも多々ありました。もっと早い段階で字の汚さと読書量の少なさに対応すべきだったと後悔しました。

しかし、年明けごろから徐々に良い方向に向かっていき、入試1週間前くらいにようやく形になりました。それに伴い、過去問も合格最低点に届くようになりました。入試直前まで伸びると聞いたことがありますが、本当にあるのだと驚きました。入試日にピークを持っていくことができ、まさに「間に合った」受験となりました。

思い返せば、TECH の選考テストで理社もテストがあると思い込み、必死に勉強させたら実は算国だけだったこともありました。日曜探究講座で葛西臨海公園に行っ

たときに、干潟で遊んでいて「もう少し先まで進めるのでは？」と促したら2人とも足をとられ、泥だらけになって帰ったこともありました。

極めつけは大事な第1志望の試験に3分遅く設定した時計を持たせてしまいました。（しかも2つとも！ そういう時に限って試験会場に時計がなかった!! ）こんなおっちょこちょいな母に文句や非難を一言も言わずについてきてくれた息子には感謝しかありません。長く苦しい受験勉強。秋からはほぼ毎日遅くまで自学室に通いました。

普段あまり感情を表に出さず飄々としているので、どこにそんな底力があったのか、正直こんなに頑張れるとは思っていませんでした。最後まで諦めずに粘り強く頑張り、第1志望校合格という目標を達成しました。まだ子供だと思っていた息子はいつの間にか大きく成長していました。母はただ「毎日よく頑張っているね！」、「ここまで勉強続けているだけでもすごいことだよ！」と声を掛けるだけでしたが、中学受験を通じて心の絆も深まったように感じます。

合格まで道のりは長くつらいものでしたが、振り返れば「幸せな受験」だったと胸を張って言えます。TECH に通ってよかった！ 今まで本当にありがとうございました!!

Ｔさん

「良い方向に転んだ受験」

進学先：桐朋中学

僕は2年生のころからスクール FC に通っていました。5年生でシグマ TECH に入った第1印象は先生が個性的でクラスの人も関わりやすいような感じでした。

最初の難敵が5年上予シリの練習問題でした。第1回の時に分からなかったのでとても悔しくなりました。新5年生の方々はまず基本問題（公式を覚える）、類題の×解きしてから練習問題に取り組むことをお勧めします。その後、4月ぐらいまで練習問題を雑にやっていて父に怒られました。

それからは月例テストの点数はよくとれていましたが志望校判定テストの算数が見直しをせずにおわらせてしまったので、ケアレスミスを連発してしまいました。その経験がいま何度も繰り返し見直すきっかけにもなったと思います（本当に見直しは徹底したほうがいいと思います）。

6年生になって受験生だと思った矢先、つぎはやる気が出てこないという難敵が現れました。そこで自学室にいって、たまに仲間と話して共感しあえたので皆さんも自学室を利用してみてください（話し過ぎには御用心あれ）。

ここで TECH のよさについていくつかご紹介します。1つ目は少人数であること、クラスのアップダウンが少ないことです。先生たちは生徒が少ないので生徒の個性をよく知ってくれています。

2つ目は1つ目に加え生徒の過去問を見てフィードバックをしてくれるので、過去問のやりっぱなしを防いでくれます。

3つ目は算数の個別指導とシグマゼミなどのオンラインの授業体制が整っていることです。まずオンラインなので家でできることがかなり楽で、足りないところを補ったり、得意教科をのばす応用的なカリキュラムがあったり、とてもよかったです。良さは何百個とでてきますが今回はここで終わりにします。

合不合判定テストで最初のほうは偏差値60あたりをキープしていたのですが、夏休み明けから下がっていって最後のテストは納得のいかない成績でした。しかしそこで踏ん張ったのが合格の秘訣であったかもしれません。

毎日眠い日々をすごしてついに入試本番！ 正直なところあまり緊張しませんでしたが、無事1日を終え、興奮であまり寝られなかったとき、いきなり両親から「受かった受かった!!」と連呼され飛び起きたら、クラッカーが発射されお祭りムードになった勢いで今まで我慢していたゲームも少ししました。

毎日眠い日々を送っていましたが、ここで目を覚ます方法をお教えします。まず3分間ぐらい目を閉じて時間になったら外を散歩すると目覚めます。

受験を終え最後の1年は早いと思いました。メリハリをつけて皆さん頑張ってください（字は日ごろから丁寧に書きましょう。）

Ｕさん保護者さま
「この子らしさを失わない」

進学先：晃華学園

■「塾」という異文化体験

中学受験を通して、私が一番意義があったと感じていることは、塾（スクールFC・シグマ TECH）通いの経験を得られたことです。

受験の第一義は中学校に合格することと思いますが、正直私としては「この子はどの学校に入っても大丈夫」「どんな環境でも、何かを学ぶことはできる。環境が悪いものであればより多くを学べるくらいだ」と思っており、「いい学校への合格が至上命題」という考えはありませんでした。小4コースから「まずはしばらく通ってみよう」と子どもを塾に誘ったのは、中学受験という選択肢を残しておくためでした。

Ｉ先生の講演会で、中学受験の世界に呑まれないように「家庭として譲れないことを書き出しておくといい」といったことを仰っていたので、私も考えました。

・睡眠時間は削らない。
・子どもらしい、この子らしさを失わせない（失いそうだったらやめる）

教えられたことを再現すれば100点満点の学校に順応し、できないことは恥ずかしい娘にとって、塾という異文化空間はなかなかの試練でした。

スクールFC小4コースの最初の授業は、まだコロナ禍が明けない中でのオンライン授業でしたが、授業のペースについていけずに号泣していました。その後も、算数の課題ができなくてほぼ毎日泣いていました。また、通塾する日は学校から帰って来るなり重いリュックを背負って急いで家を出て、バス停でおにぎりを食べ、バスの中で学校の宿題をやる、という生活も、それまでとの変化が大きく大変そうで、心苦しくなることもしばしばありました。

しかし、後になってこの頃のことを「小4はカルタとかやってすごく楽しかったよ！ 」と言っていてびっくりしました。私は家で泣いて辛そうな顔ばかりが思い出されるのですが、たしかに1度も「やめたい」とは言わなかったし、楽しかったのか…と、それぞれの見ている景色は違うものだなと思いました。

睡眠が大事なので、小5からは終わり時間が早いTECH に入りました。ギリギリで入ったため、とくに苦手な算数では苦労して、仕事中に「課題が終わらないから（塾に）行けない」と泣きながら電話がかかってきたこともありました。そんなときは Comiru でこっそり先生に状況を共有して、声掛けをしていただいたりもしました。

けれど授業や日曜探究講座、講習、サマチャレなどを通してだんだんとクラスに愛着が生まれてきたようで、クラスメイトや先生のことをよく楽しそうに話してくれました。仲間たちと一緒に過ごすことで、小5の途中からは「人は人、自分は自分」という良い意味での諦めがつくようになったのか、相変わらず課題を終わらせることができなくても泣くことは少なくなってきて、私も少し気が楽になりました。

また、小6からは算数のクラスを分け、授業と同じ先生が個別指導を担当してくれることになったおかげで、安心して取り組めるようになり、算数の力をつけていくことができたように思います。

入試直前には、私が体調管理で気を張っていることとは対照的に、壮行会でクラスメイトがどんなにおもしろかったかをずっと楽しそうに話していました。学校では出会わない、いろいろな点で違いの大きい子たちと「仲間」になれる経験ができたことは、人生の宝になったと思います。

また、スクールFCでは先生が講座を開いていたり、TECH の「日曜探究講座」では専門の先生が深掘りした学びを伝えてくださったり、学びを楽しむ大人の姿を子どもに見せることができたのは、私にとっては何より嬉しいことでした。

入試本番中も、国語や社会の問題を楽しそうに教えてくれて、第1志望校の入試の前日も「明日の入試楽しみ！」と言っていた娘。そんなふうに勉強を、試験を楽しめるような受験生活を送らせてくださった先生には感謝でいっぱいです。

■学校選び

受験をさせる中で不安に感じていたことは、テストの点数や偏差値で比較される経験をしなければならないことです。それらを人間の優劣の指標と勘違いして、自己否定したり、人を見下したりするようなことがあってはなり

ません。ここでも、スクールFC・TECHでは成績で頻繁にクラス分けをして競争をあおったり、偏差値をことさらに意識させたりすることはせず、学校選びにおいても、偏差値だけではなく、その子に合った学校を選ぶよう勧めていたので、とても信頼できました。

学校選びでは、『FCだより』に載っていた学校選びの記事で、「“違和感をおぼえたら”それをことばにしてみる」という指南があり、これが私にはまりました。説明会を聞いて何か違和感を感じたとき、それはどうしてだろうと考えると、その根底にある自分の大事にしている要素が見えてきます。子どもが受験をしなければ、こうして自分の価値観を見つめる機会もなかったかもしれないと思うと、ありがたい経験でした。

学校はできるだけ親だけ先に見にいき、候補に入れたいと思う学校の文化祭などのイベント（生徒がいる場）に子どもを連れていくようにしました。最終的な選択は子どもに任せました。選んだ学校はすべて子どもはとても気に入っていて、結果的に合格したけど進学しないことになった学校に「そっか、あそこには行けないのか…」と残念がるほどでした。

ちなみに、中学受験に関して我が家は完全に私（母親）のワンオペでした。中学受験に関する情報は基本的に両親そろっている状態を前提にして発信されている気がしますが、（経済面は別として）1人だと無理ということはありません。塾の先生とは、お迎えがてら立ち話をしたり、Comiru で相談したり、とてもお世話になりました。TECH の先生は「塾を“うまく”使ってください」と仰っているのは本当で、「これくらいのこと」と思わずに、気になることはためこまずに気軽に相談したほうがいいと思いました。塾の送り迎えの際に顔を合わせたお母さんに声をかけて友達になり、おしゃべりしたことも、気持ち的にとても助けになりました。

■受験を終えて思うこと

小4のころから、この道を進んでいてよいのだろうか、とずーっともやもやしながらの受験生活でした。M 先生が講演会で「そのもやもやは受験が終わるまで続きます」と仰ってくださったので、「そうか、みんなそういうものなのか」と安心してもやもやしていましたが、意外なことは、受験が終わってももやもやがすっきり晴れなかったことです。もちろん合格をいただいたときはうれしかったですが、進学先の学校がこれでよかったのか、そもそも中学受験という進路選択が正しかったのか、今もその選択に自信はなく、もやっとした気持ちは残っています。

けれど、考えてみれば正解は「わからない」のではなく、いまどこにも「存在しない」のです。それはこれから子ども自身がこれまでの経験をどう使って、どう歩んでいくか次第です。これからの彼女の歩みを、もやっとしたりどきどきしたりひやひやしたりしながら、見守っていこうと思います。きっと彼女は自分で自分を幸せにできる大人になると信じています。

入試がすべて終わった2月中旬、私の誕生日に子どもが手紙をくれました。それを読んでほっとして、ひと区切りできた気がしました。

カルタをそらんじながら塾に通ったこと。帰り道、たい焼きを食べたこと。一緒に授業ノートを解読しながら問題を解いたこと。学校見学であちこち知らない町を歩いたこと。入試会場に入っていく背中。不合格が続いた苦い気持ちで見上げた空がとてもきれいだったこと。

子ども自身も私も、受験をしなかったら体験できなかったことを、たくさん経験させてもらいました。

通塾を始めるときに、「この子らしさを失わない」と書きましたが、失わないどころか、3年間を通じてそれまで知らなかったわが子の側面をいくつも知ることができました。おそらく本人も、たくさんの自分に出会ったことと思います。私も新しい「この子らしさ」に驚き、おもしろがり、親子の時間を満喫しました。

本当に「幸せな受験」でした。

ありがとうございました。

Uさん

「やりきった！思ってた2倍楽しかった受験」

進学先：晃華学園

私は4年生のときはスクール FC の4総に通っていて、5年生でシグマTECHに通い始めました。FC のときはとくに算数が難しくて、家で課題を毎日母に手伝ってもらいながら終わらせていました。

母にTECHを勧められたときは「シグマクラスに私が?? 」とすごく驚きました。「テストだけでも受けてみたら? 」とのことで、無理だろうなと思ったけれど週2日ということが魅力的で受けてみるとなんと合格。ここまで来たら行くしかないと思って入りました。

TECHもFCと同じくみんな元気でにぎやかでした。初回授業は何とか内容が理解できたものの、次の授業から特に算数が分からなくて、とりあえずノートに解説を書いて、それを見ながら課題を解いていました(そうしないと何も分からなかったので)。月例テストでもあまり良くない結果でした。シグマテストでははじめは40点くらいでその後だんだんテストも難しくなっていき、自己採点の時間にクラスメイトが「今回点数低くて70点台だー」と話している時「私は13点…。」なんてこともありました(さすがにそのときは少し落ち込みました)。

5年生の後期のはじめにいつもの先生から急に「分からないところあったらどんどん質問しよう! 夜 TECH 入ろう!」と言われました。それから少しずつ夜 TECH に入るようになり、分からないところがあったら質問に行き、6年生のときはすぐ飛んで行くようになりました。5年生の算数の個別の先生に「自分で意味の分からない式を立てないように」と言われ、分からない式をほうっておかないようにしました。やってよかったと思います。

6年生になって算数がSクラスとTクラスに分かれて、授業についていけるようになりました。後期になって過去問が始まって、第一志望校の過去問がボロボロなことは覚悟していたのですが、意外と第二志望も届いていなくて「こんなものか…」と思いました。

(TECH のクラスでもさすがに6年生後期になったら静かになるかと思っていたら、そんなことはありませんでした。)

最後の模試の結果を見た先生から「演習問題集の基本レベルのものを1月10日までに全部やろうか」と課題を言い渡されました。結局、終わったのは1月31日でした。おそらく力になったと思います。

開智所沢(埼玉)の過去問はとても相性が分かれました。特特Bは合格最低点を超えていたのですが、一般のほうが簡単なはずなのに、合格最低点−50点でした。受かればいいなと思いながらも2回とも不合格。終わったあと、毎回先生が対策プリントを用意してくれました。後がない特待 B のテスト中はとりあえず記述を楽しんでいました。ようやく合格できました。それよりも算数の自分の点数が受験者平均点より高かったことがうれしかったです。

1月下旬は学校を休むことにしたので(行きたかったけど)毎日自学室に10時から行きました。過去問が中心で、解説を読んで分からなかった問題はリアルタイムで質問攻めしていました。自学室にみんないたから「喋れないけど頑張ろう! 」という気持ちになれて楽しかったです。(ちなみに最後まで課題は算理でしたが、最初に比べたら数字的にものびていました。)

壮行会でも TECH は安定の元気さで、緊張感はかけらもなくて(自分もなかった)よかったです。

当日はドキドキしたけれど、どんな問題が出るか楽しみにしていました(この気分おすすめです)。入試前の待ち時間はどの休憩時間にトイレに行くかプランを考えるといいです。得意な国語でミスをして焦ったけれどもう考えないことにしました。

午後の入試の前にバスで寝たので、頭もさえて眠くもならず手ごたえありで終えました(第一志望校は不合格)。2日目も同じように終わらせて、お昼ごはんのカフェで結果を見て第二志望校合格!! 嬉しかったです(理社が得意な私が 2 科で合格したところがポイント)。

振り返ると、5年生の時は本気でクラスが落ちるのではないかと思っていたけれど、最後までシグマクラスでした。よく頑張った!!と自分で思っています。

勉強のポイントは絶対に✕解きをすること、分からなかったらたくさん質問をすることです。

吉祥寺 TECH のいいところ

・元気なところ
・すぐ大喜利し始めるところ
・時間があれば早押しクイズをするところ

などです。

TECH・FC の先生方、仲間たち(家族も)いい受験をありがとうございました。

これからも FC・TECH のことを忘れずにいろいろがんばります。

シグマTECH

School FC
シグマTECH
https://sigmatech.schoolfc.jp/
シグマTECH 検索